

IV 政策分野別の考察について

27の政策分野ごとに、過去3年分の生活実感と今年度の政策重要度等から読み取れる傾向や課題をまとめた。

<表の見方>

生活実感			政策重要度	
① 肯定的回答	② 順位	③ 過去2年との比較	④ 肯定的回答	⑤ 順位
〇〇%	△/27	上昇 (+□%)	〇〇%	△/27
⑥ 【考察】				
.....				
.....				
.....				
.....				
.....				
.....				

- ① 当該分野における生活実感の設問の肯定的回答（「そう思う」と「どちらかという
とそう思う」を足し合わせたもの）の平均値（H25）
- ② ①について27の政策分野における順位（H25）
- ③ ①と過去2年分（H23・24）の平均値との比較
- ④ 当該分野における政策重要度の肯定的回答（「重要である」と「どちらかという
と重要である」）の値（H25）
- ⑤ ④について27の政策分野における順位（H25）
- ⑥ 市全体と世代別・性別の観点から、当該分野の特徴的な傾向を示したもののや、そ
こから読み取れる課題、期待される取組を記述

なお、考察の中で取り上げた特徴的な設問は<資料6>にグラフを掲載しているので、そちらをご確認いただきたい。

1 環境（P 47 参照）

生活実感			政策重要度	
肯定的回答	順位	過去2年との比較	肯定的回答	順位
50.9%	8/27	上昇 (+2.0%)	88.7%	3/27
<p>【考察】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・マイバッグやリサイクル製品に関する生活実感の設問6では、若年層女性と中年層女性は肯定的回答が高いことから、マイバッグなど個人でできる取組は浸透していると考えられる。今後は、肯定的回答が低かった若年層男性と中年層男性が行動に移しやすい取組が期待される。 ・設問5の「京都では、環境にやさしい行動を当たり前のこととして実践するひとや事業者が増えている。」は設問6と関連して肯定的回答が高いことが想定されたが、実際は全体平均よりも低い結果となった。“私”自身は環境にやさしい行動をとっているが周囲の人や事業者という点では取組がまだ不十分という意識があるのではないか。 				

2 人権・男女共同参画（P 48 参照）

生活実感			政策重要度	
肯定的回答	順位	過去2年との比較	肯定的回答	順位
23.1%	24/27	上昇 (+1.0%)	81.6%	11/27
<p>【考察】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ワークライフバランスや女性への暴力に関する生活実感の設問3・4では、各世代とも男性のほうが肯定的回答が高く、男女間で意識の差が明らかとなった。特に若年層の男性と女性の間ではその差が顕著であった。さまざまな啓発活動は行われているが、今後は若年層男性に重点を置いた取組が期待される。 ・どの世代別・性別においても政策重要度が高い割に生活実感は低かった。社会全体で人権尊重・男女共同参画への意識の向上に向けたさらなる取組が期待される。 				

3 青少年の成長と参加

生活実感			政策重要度	
肯定的回答	順位	過去2年との比較	肯定的回答	順位
13.2%	27/27	上昇 (+1.1%)	82.2%	10/27
<p>【考察】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・どの世代別・性別においても政策重要度が高い割に生活実感は低かった。社会全体で青少年を支える意識の向上に向けたさらなる取組が期待される。 ・生活実感においては「どちらとも言えない」と「無回答」が多かった。青少年に限定した設問であるため、回答するのが難しかったと思われる。 				

4 市民生活とコミュニティ（P49参照）

生活実感			政策重要度	
肯定的回答	順位	過去2年との比較	肯定的回答	順位
38.2%	14/27	上昇 (+2.0%)	81.3%	12/27
<p>【考察】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 中年層男性の生活実感が他の世代別・性別と比べて最も低かった。仕事が生活の中心であり、地域のことについてあまり関心がないか、あるいは知る機会がないことが影響していると思われる。 ・ 中年層男性と高年層男性は、町内会や自治会に関する設問2・4において幸福実感との正の相関がみられた。 ・ 仕事中心の中年層男性が定年退職を迎える高年層の初期段階で地域にスムーズに入っていけるような取組が期待される。 				

5 市民生活の安全（P50参照）

生活実感			政策重要度	
肯定的回答	順位	過去2年との比較	肯定的回答	順位
31.5%	20/27	上昇 (+2.4%)	88.1%	4/27
<p>【考察】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 若年層男性と中年層男性の生活実感が低かったが、その内容は異なっている。若年層男性は設問4の消費者問題が特に低く、中年層男性は設問1の防犯・治安における地域の支え合いが特に低かった。 				

6 文化（P51参照）

生活実感			政策重要度	
肯定的回答	順位	過去2年との比較	肯定的回答	順位
57.5%	5/27	上昇 (+4.1%)	77.1%	18/27
<p>【考察】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 生活実感は高く、また過去2年との比較では2番目に上昇した分野である。 ・ 本市全体のイメージに関する設問（1・3・4）の生活実感は高いが、回答者自身の生活に関わる設問2の生活実感は低かった。本市全体のイメージと生活における具体的な文化芸術との関わりの間には差があるのではないか。 				

7 スポーツ（P53参照）

生活実感			政策重要度	
肯定的回答	順位	過去2年との比較	肯定的回答	順位
31.2%	21/27	上昇（+2.6%）	63.9%	26/27
<p>【考察】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生活実感で全体を下げているのは、プロスポーツに関する設問2が特に低かったためである。 ・高年層男性はスポーツを身近に楽しむことに関する設問1やスポーツのボランティアに関する設問3において幸福実感との正の相関がみられたことから、一層積極的にスポーツに関わっていけるような取組を推進することで、高年層男性の幸福実感を高めることが期待できる。 ・設問1・3においては、全世代で男性よりも女性の生活実感が低かった。 				

8 産業・商業（P54参照）

生活実感			政策重要度	
肯定的回答	順位	過去2年との比較	肯定的回答	順位
37.8%	15/27	上昇（+1.3%）	70.6%	23/27
<p>【考察】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・京都の価値や特色を生かした産業に関わる生活実感の設問2・3で肯定的回答が高いことから、京都市民は産業における“京都らしさ”を強く実感しているといえる。 ・中年層男性の生活実感は低いですが、働く機会に関する設問5では幸福実感との正の相関がみられた。とりわけ安定した雇用を求めているのが中年層男性だといえる。 ・高年層女性は生活実感も政策重要度も無回答が多く、関心のある層とない層に二分されているといえる。 				

9 観光（P56参照）

生活実感			政策重要度	
肯定的回答	順位	過去2年との比較	肯定的回答	順位
59.8%	3/27	上昇（+2.5%）	77.7%	16/27
<p>【考察】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日常生活と観光に関する設問3・4で中年層男性の生活実感が特に低いことより、中年層男性は市内観光を楽しめておらず、また暮らしやすいと感じていないといえる。 ・設問5では、若年層の否定的回答が特に多かった。 				

10 農林業

生活実感			政策重要度	
肯定的回答	順位	過去2年との比較	肯定的回答	順位
14.0%	26/27	下降 (-0.5%)	70.5%	24/27
【考察】 ・生活実感は全27分野の中で2番目に低い結果となり、さらに過去2年の平均と比べても下降していることから、特に注意を要する。 ・政策重要度も全体的に低い結果となったことから、京都市内における農林業の重要性などを市民にもっと広く知ってもらうための取組が期待される。				

11 大学（P57参照）

生活実感			政策重要度	
肯定的回答	順位	過去2年との比較	肯定的回答	順位
57.2%	6/27	上昇 (+5.2%)	68.2%	25/27
【考察】 ・生活実感において過去2年との比較で最も上昇した分野である。しかし、大学生のパワーを感じることに関する生活実感の設問4は、過去2年から低いままであり、特に中年層と高年層でその傾向が強い。 ・京都のまちの活性化に大学生のパワーをより活用するとともに、中年層と高年層に対してそれを見聞きする機会を提供する取組が期待される。				

12 国際化（P58参照）

生活実感			政策重要度	
肯定的回答	順位	過去2年との比較	肯定的回答	順位
53.1%	7/27	上昇 (+1.2%)	75.7%	20/27
【考察】 ・「京都は、文化資産の継承、環境にやさしい取組などを通して、平和都市として国際社会に貢献している。」の生活実感の設問2は、若年層女性が特に肯定的回答が低い。 ・「国籍、民族、文化等が違って互いに理解し合い、ともにいきいきとくらするまちになっている。」の生活実感の設問3は、中年層男性が特に低かった。 ・若年層女性と中年層男性は他の世代別・性別と比べて政策重要度も低かったことから、それぞれの設問に関してターゲットを絞った取組を展開することが期待される。				

1 3 子育て支援（P 5 9 参照）

生活実感			政策重要度	
肯定的回答	順位	過去2年との比較	肯定的回答	順位
36.4%	17/27	下降 (-0.4%)	85.4%	5/27
【考察】 ・身近な地域での子育て支援や医療体制に関する生活実感の設問3は、他の設問と比べて肯定的回答が高かったが、各世代とも男性のほうが低かった。 ・仕事と子育ての両立に関する設問4については、近年多くの支援や広報活動がされてきたものの肯定的回答は低く、また過去2年と比べても低くなっており、より一層の取組が期待される。				

1 4 障害者福祉（P 6 0 参照）

生活実感			政策重要度	
肯定的回答	順位	過去2年との比較	肯定的回答	順位
25.7%	23/27	下降 (-0.3%)	85.1%	6/27
【考察】 ・バリアフリーに関する設問4は過去2年と比べて肯定的回答が増えているが、その中では中年層女性の肯定的回答が特に低く、今後注意を要する。				

1 5 地域福祉（P 6 0 参照）

生活実感			政策重要度	
肯定的回答	順位	過去2年との比較	肯定的回答	順位
30.4%	22/27	上昇 (+2.4%)	77.7%	16/27
【考察】 ・中年層男性の生活実感が低いことが特徴的である。特に設問2・4が低いことから、中年層男性が地域の福祉活動や防犯・防災の取組に参加しやすくなる仕組みが期待される。				

16 高齢者福祉

生活実感			政策重要度	
肯定的回答	順位	過去2年との比較	肯定的回答	順位
37.4%	16/27	上昇 (+2.1%)	78.6%	15/27
<p>【考察】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 中年層男性と中年層女性の生活実感が全体的に低かった。身近に迫った高齢時の生活に対する不安が高いことがうかがえる。 ・ 一方、若年層男性が高かった理由は、自分たちにとってはまだ遠い将来のこととして楽観的にとらえているためではないか。 ・ 高年層女性は生活実感が低いものの、幸福実感の相関が複数みられたことから、この層をターゲットとした取組を強化することで、高年層女性の幸福実感を高めることが期待できる。 				

17 保健衛生・医療（P61参照）

生活実感			政策重要度	
肯定的回答	順位	過去2年との比較	肯定的回答	順位
57.7%	4/17	上昇 (+0.8%)	84.8%	7/27
<p>【考察】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 生活実感は全体的に高いが、設問1の「正しい情報を基に、健康づくりに取り組むひとが増えている」は比較的低かった。 ・ 食の安全に関わる設問3と5で幸福実感との正の相関が多くみられたことから、食の安全に対する重要性がうかがえる。 				

18 学校教育（P62参照）

生活実感			政策重要度	
肯定的回答	順位	過去2年との比較	肯定的回答	順位
36.0%	18/27	下降 (-0.7%)	84.7%	8/27
<p>【考察】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 学校の先生と保護者や地域との連携に関する生活実感の設問3は全体として低く、特に中年層男性が低かったが、中年層女性は比較的高かった。中年層男性は中年層女性と比べて、学校の先生との関わりが弱いためにこのような結果になったのではないか。 ・ 若年層女性と中年層男性において生活実感と幸福実感の正の相関が複数みられた。 				

19 生涯学習（P62参照）

生活実感			政策重要度	
肯定的回答	順位	過去2年との比較	肯定的回答	順位
39.2%	13/27	上昇 (+0.7%)	77.0%	19/27
<p>【考察】</p> <ul style="list-style-type: none"> 生活実感の設問3の「地域での取組において、幅広い世代がともに学べる機会が充実している」は中年層と高年層で低かった。生涯学習の主役である中年層や高年層にとって魅力的な生涯学習のメニューの開発などに対する支援が一層求められる。 設問4では、高年層の生活実感が高い一方、子どもの親世代である若年層・中年層の生活実感が低いことから、双方の意識にミスマッチがあることがうかがえる。 				

20 歩くまち（P63参照）

生活実感			政策重要度	
肯定的回答	順位	過去2年との比較	肯定的回答	順位
45.3%	11/27	上昇 (+2.5%)	73.3%	22/27
<p>【考察】</p> <ul style="list-style-type: none"> 公共交通に関する生活実感の設問2・5とも生活実感が高かったが、自動車渋滞に関する設問4や自転車マナーの問題に関する設問6は生活実感が低かったため、自動車渋滞や自転車マナーへの対策が課題である。 				

21 土地利用と都市機能配置（P65参照）

生活実感			政策重要度	
肯定的回答	順位	過去2年との比較	肯定的回答	順位
46.6%	10/27	下降 (-0.3%)	62.5%	27/27
<p>【考察】</p> <ul style="list-style-type: none"> 身近な地域に関わる設問4・5は、生活実感が比較的低いにもかかわらず幸福実感との正の相関が見られた。 田の字地域や京都駅周辺に関わる設問2では、中年層男性と高年層男性の実感が低く、南部地域に関わる設問3では、若年層男性の実感が低かった。中・高年層男性は産業としての面を、若年層男性は商業としての面を重視しているのではないかと推察される。 政策重要度はすべての政策分野の中で最も低い結果となったが、「どちらとも言えない」と「無回答」が多かったためである。この分野のタイトル「土地利用と都市機能配置」を市民にもっとわかりやすい言葉へ変更することも一案である。 				

2.2 景観（P 67 参照）

生活実感			政策重要度	
肯定的回答	順位	過去2年との比較	肯定的回答	順位
60.1%	2/27	下降 (-0.2%)	80.6%	13/27
【考察】 ・生活実感は、電柱に関する設問4を除いて肯定的回答が高く、中でも若年層の男女において肯定的回答が高かった。				

2.3 建築物（P 68 参照）

生活実感			政策重要度	
肯定的回答	順位	過去2年との比較	肯定的回答	順位
33.0%	19/27	下降 (-0.1%)	80.6%	13/27
【考察】 ・生活実感が低いのが、全体を下げていたのは設問3・4であり、ともに防災に関する設問である。特に細い道に関する設問4は否定的回答が半数近くある。				

2.4 住宅（P 69 参照）

生活実感			政策重要度	
肯定的回答	順位	過去2年との比較	肯定的回答	順位
23.1%	24/27	上昇 (0.9%)	75.5%	21/27
【考察】 ・生活実感のすべての設問において肯定的回答が低かった。中でも、低所得者や高齢者に関する設問4は肯定的回答が最も低く、また過去2年から低いままである。この分野における対策が特に望まれる。				

25 道と緑（P69参照）

生活実感			政策重要度	
肯定的回答	順位	過去2年との比較	肯定的回答	順位
42.9%	12/27	同じ（0.0%）	83.6%	9/27
【考察】 ・まちの緑に関する設問2だけが肯定的回答が高かった。3年間を通して高く、特に高年層男性・女性で高かった。				

26 消防・防災（P70参照）

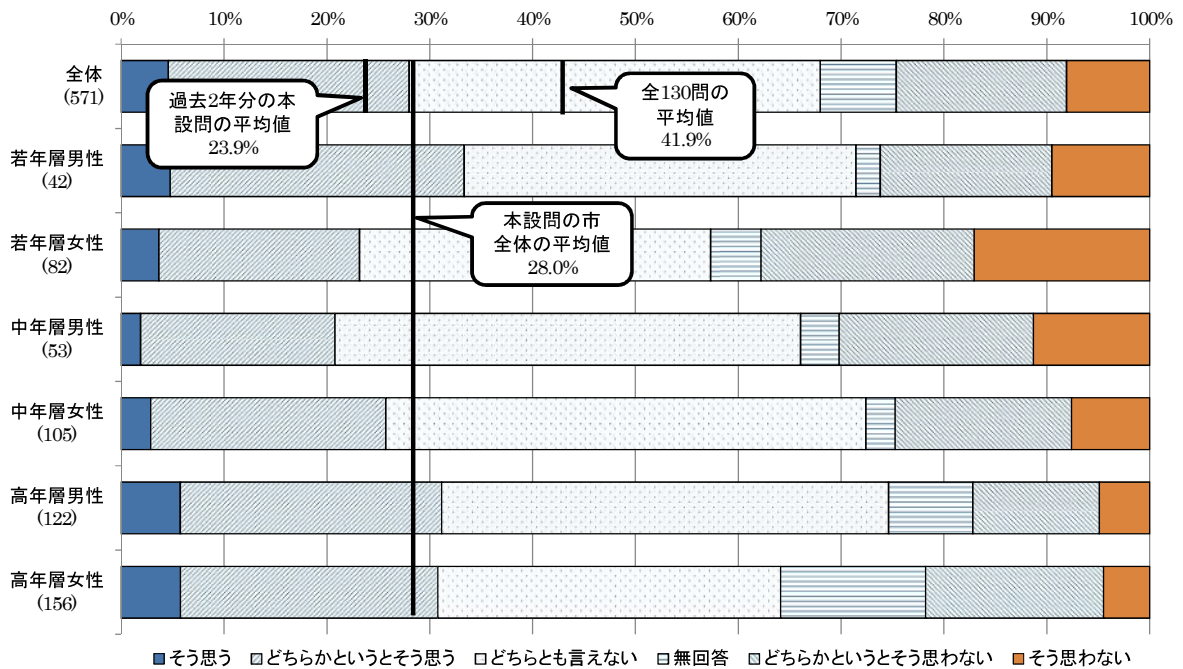
生活実感			政策重要度	
肯定的回答	順位	過去2年との比較	肯定的回答	順位
49.1%	9/27	上昇（+1.5%）	90.9%	1/27
【考察】 ・身近なところや個人で取り組んでいる内容に関する生活実感の設問1・4は、肯定的回答が低かった。まず身近なところから始められる仕組みが必要と思われる。 ・防火意識に関する設問1は若年層女性が比較的高い一方、中年層男性は最も低かった。しかし防災意識に関する設問5では逆に中年層男性が高い一方、若年層女性は最も低かった。				

27 暮らしの水（P71参照）

生活実感			政策重要度	
肯定的回答	順位	過去2年との比較	肯定的回答	順位
61.9%	1/27	下降（-0.6%）	90.1%	2/27
【考察】 ・上下水道サービスに関する生活実感の設問4は、高年層の肯定的回答は高かったが、若年層と中年層の肯定的回答は低かった。若年層・中年層向けの広報の工夫がより一層求められる。 ・身近な地域の浸水被害対策に関する設問2では、全体としては肯定的回答が高いものの、市全体、若年層女性、高年層女性の肯定的回答が過去2年と比べて大きく下降しており、浸水被害対策のさらなる充実が期待されていると考えられる。				

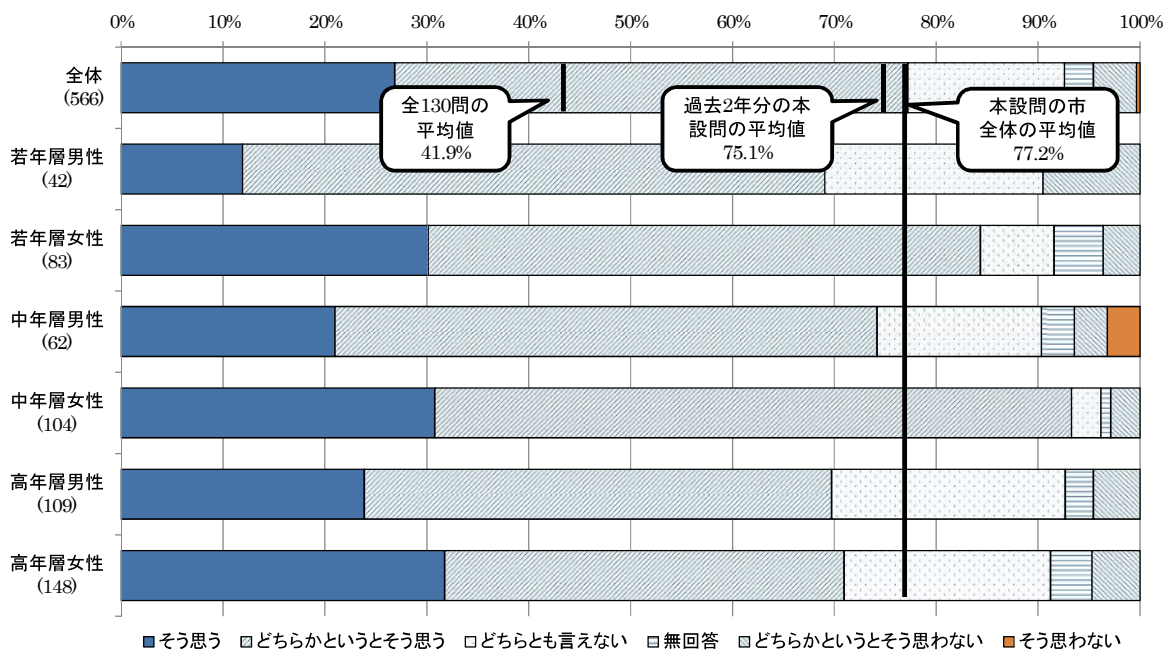
環境 生活実感（世代別・性別）

設問5：京都では、環境にやさしい行動を当たり前のこととして実践するひとや事業者が増えている。



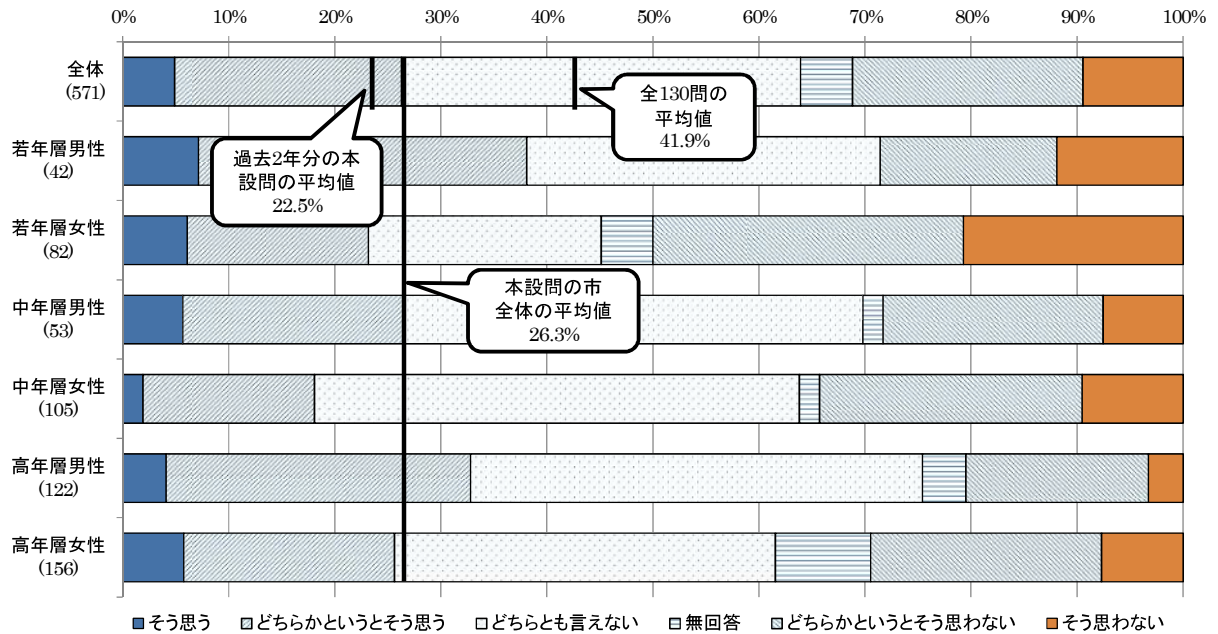
環境 生活実感（世代別・性別）

設問6：マイバッグやリサイクル製品など、ごみを出さないようなくらしと事業活動が広がっている。



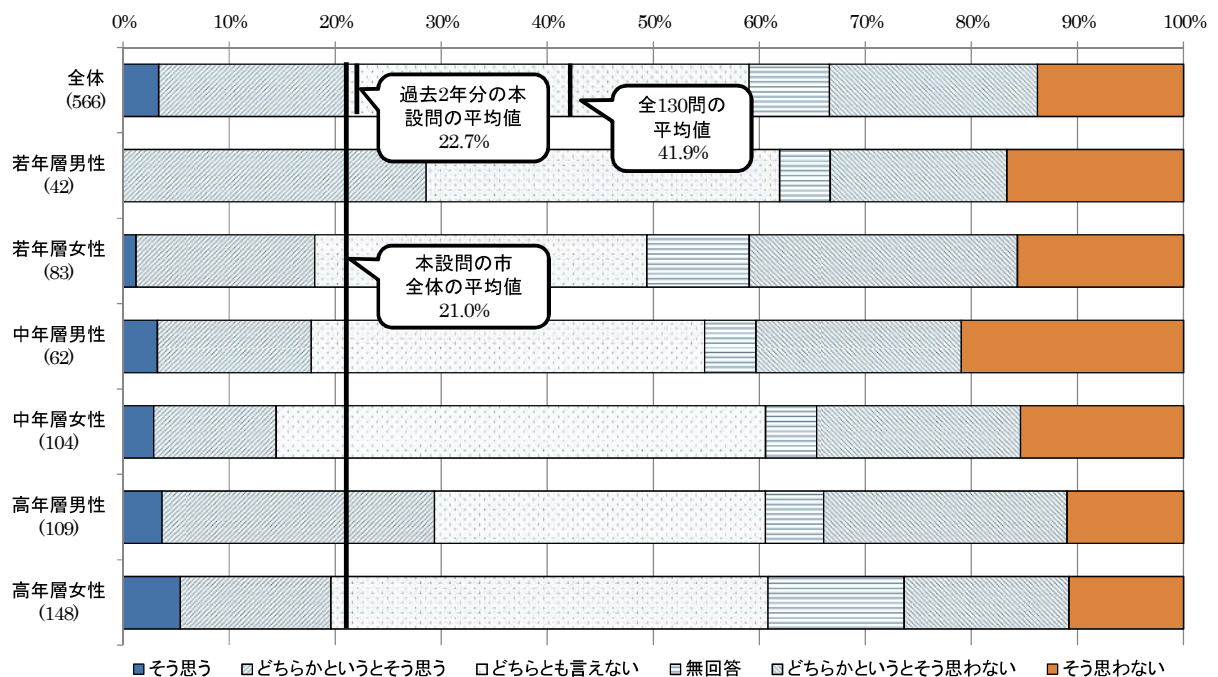
人権・男女共同参画 生活実感（世代別・性別）

設問3：女性も男性も、仕事と生活（家庭や地域活動など）をバランスよく充実できる社会になってきている。



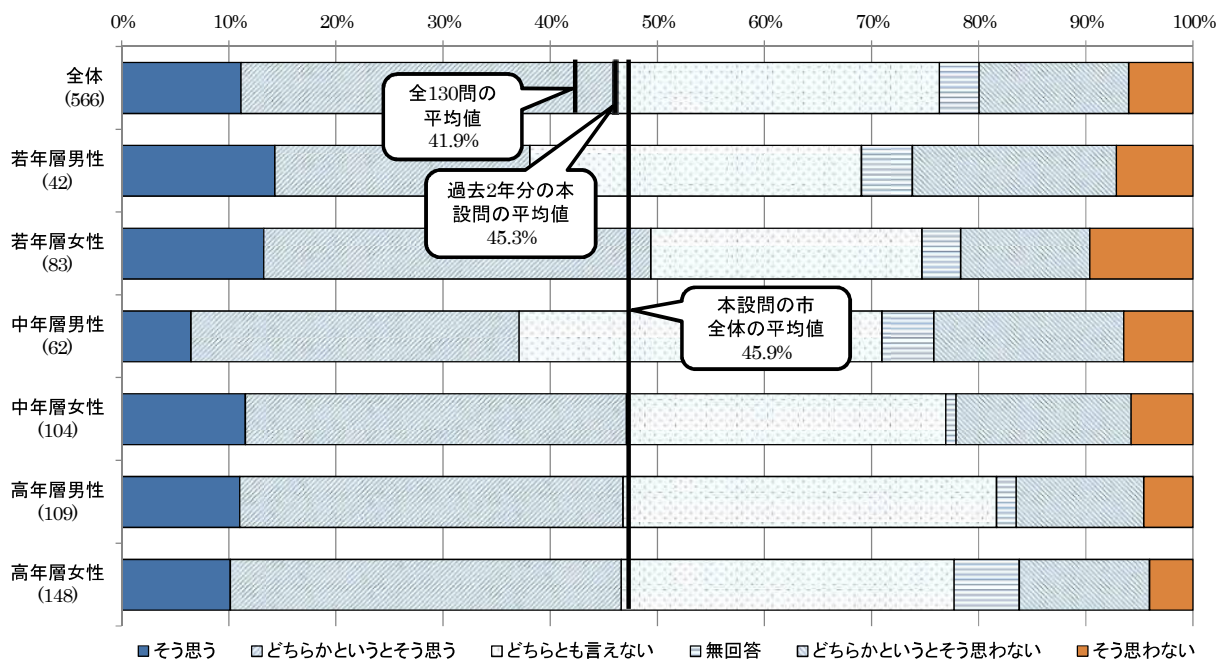
人権・男女共同参画 生活実感（世代別・性別）

設問4：女性に対する暴力や性的いやがらせが根絶された社会になってきている。



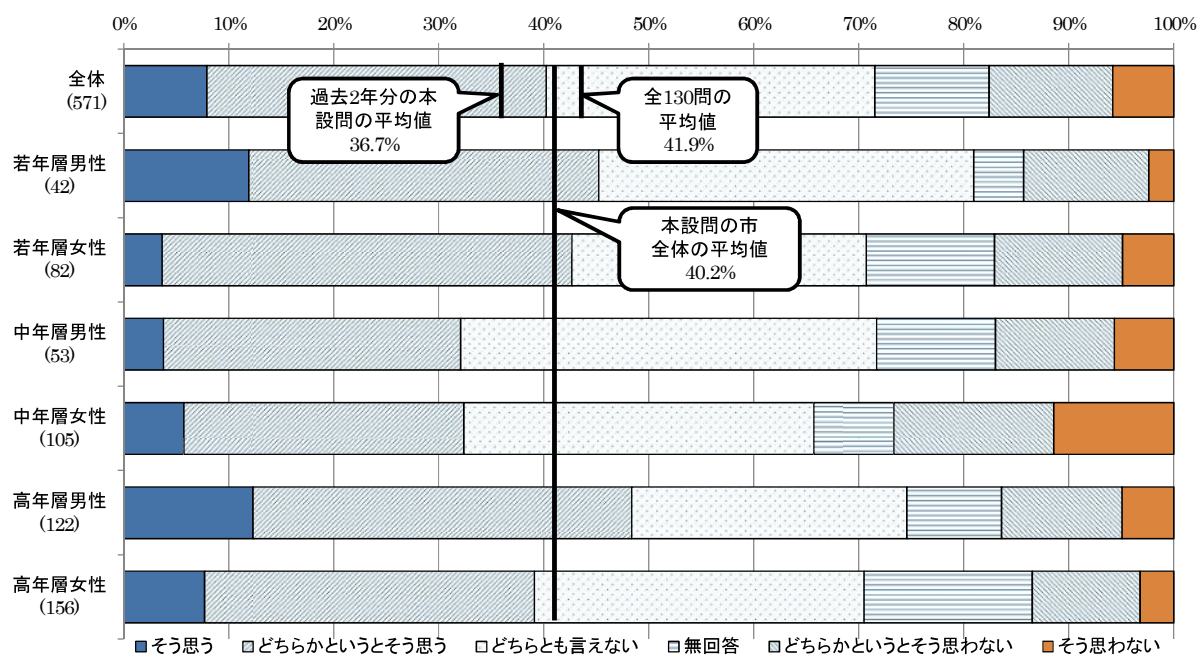
市民生活とコミュニティ 生活実感（世代別・性別）

設問2：町内会、自治会など地域の組織の活動が盛んである。



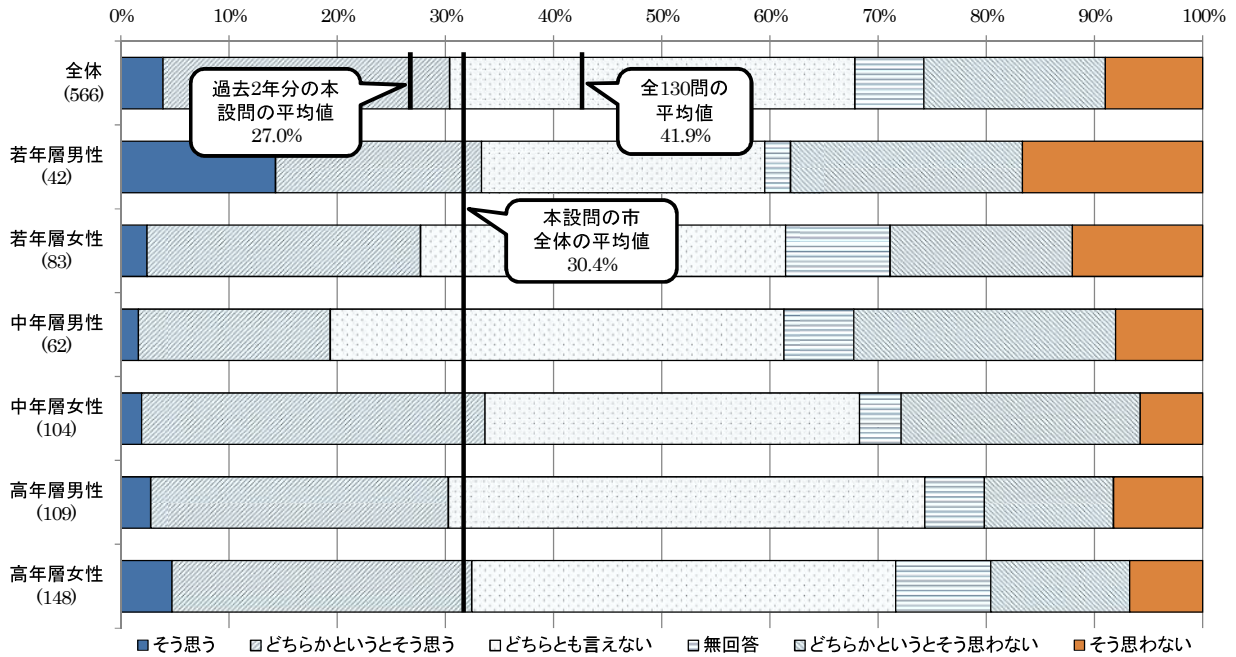
市民生活とコミュニティ 生活実感（世代別・性別）

設問4：多様なNPOやボランティア組織と町内会・自治会などの地域の組織が協力して活動している。



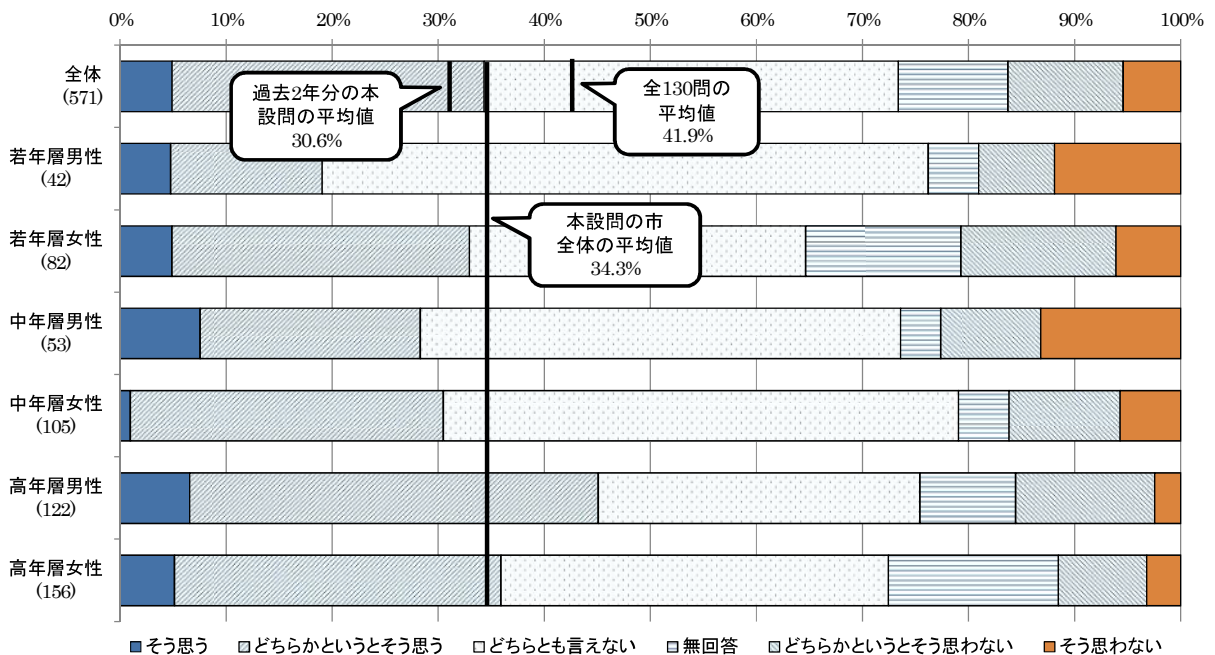
市民生活の安全 生活実感（世代別・性別）

設問1：犯罪や事故など万が一のことがあっても、お互いに助け合えるまちである。



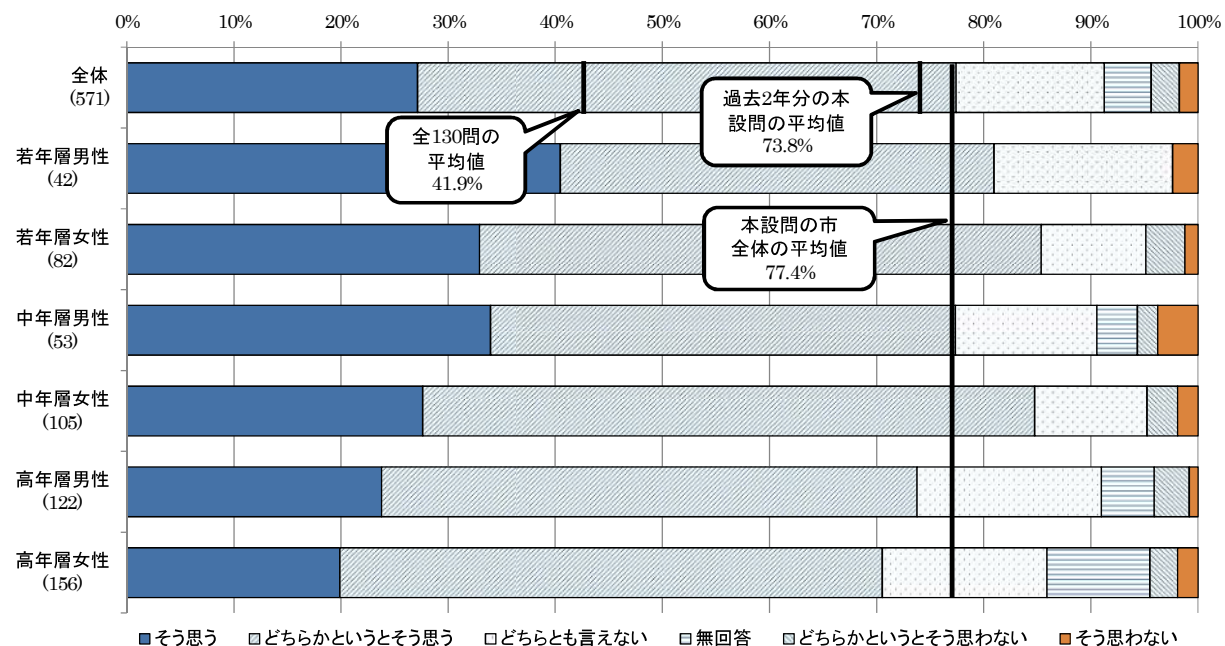
市民生活の安全 生活実感（世代別・性別）

設問4：消費生活に関する情報や知識を備えた自立した消費者が増えている。



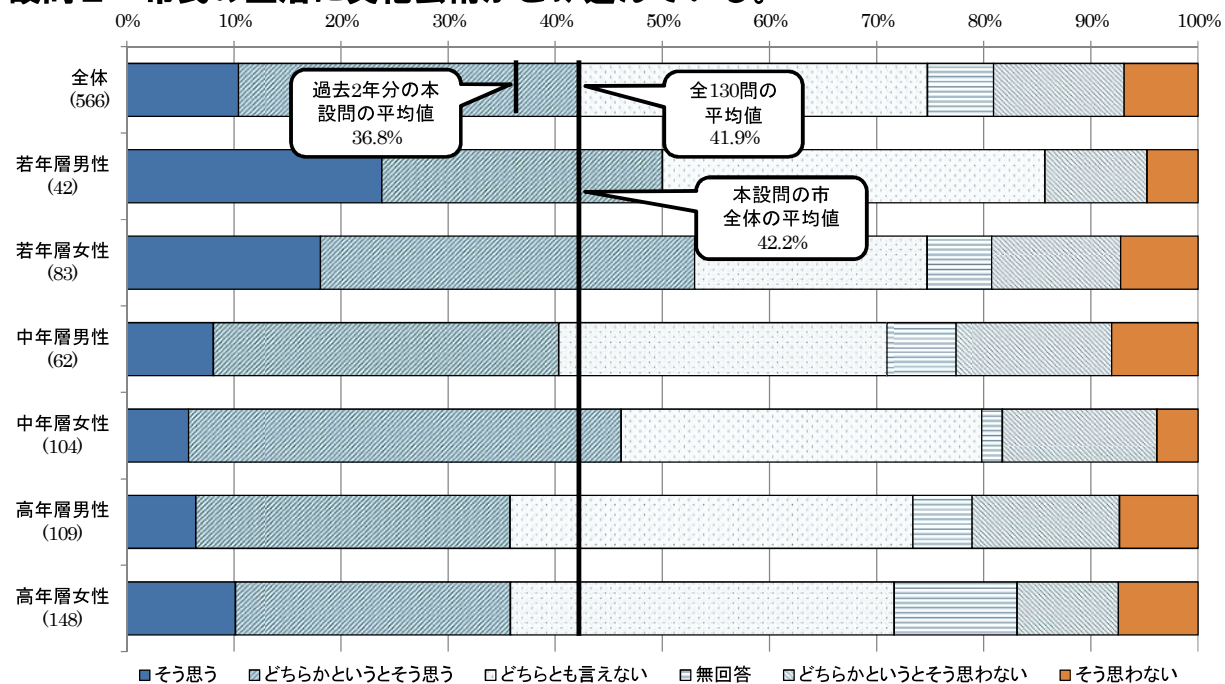
文化 生活実感（世代別・性別）

設問1：京都では、文化芸術にかかわる活動が盛んである。



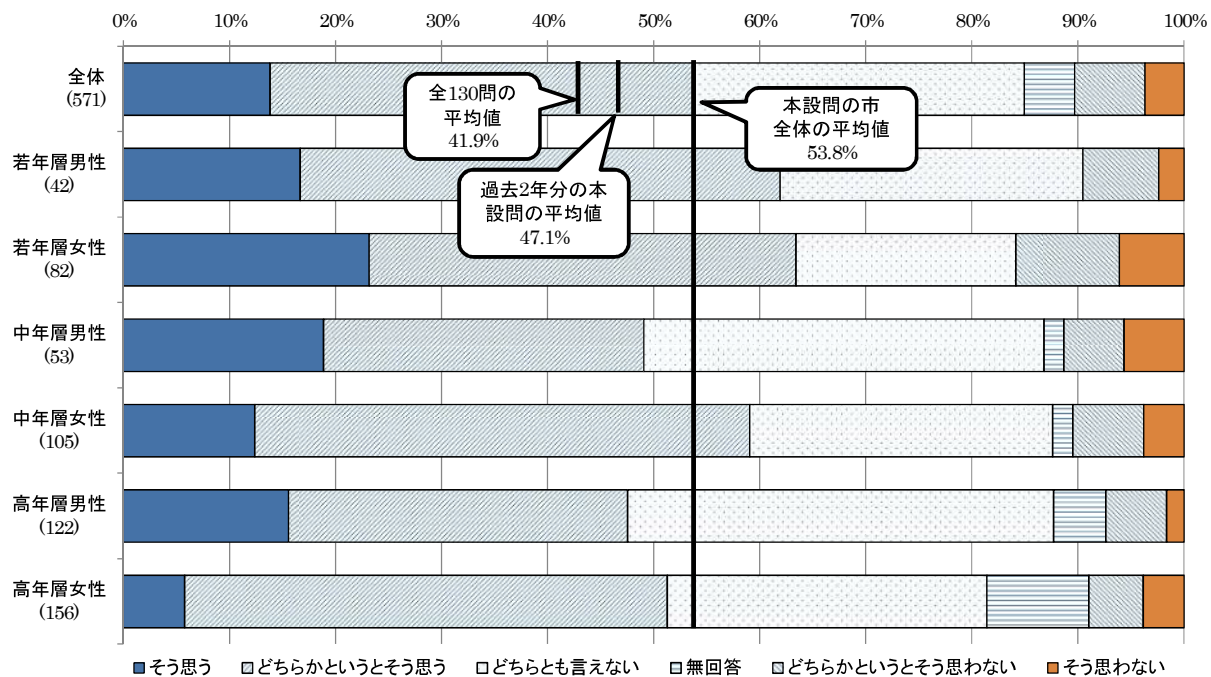
文化 生活実感（世代別・性別）

設問2：市民の生活に文化芸術がとけ込んでいる。



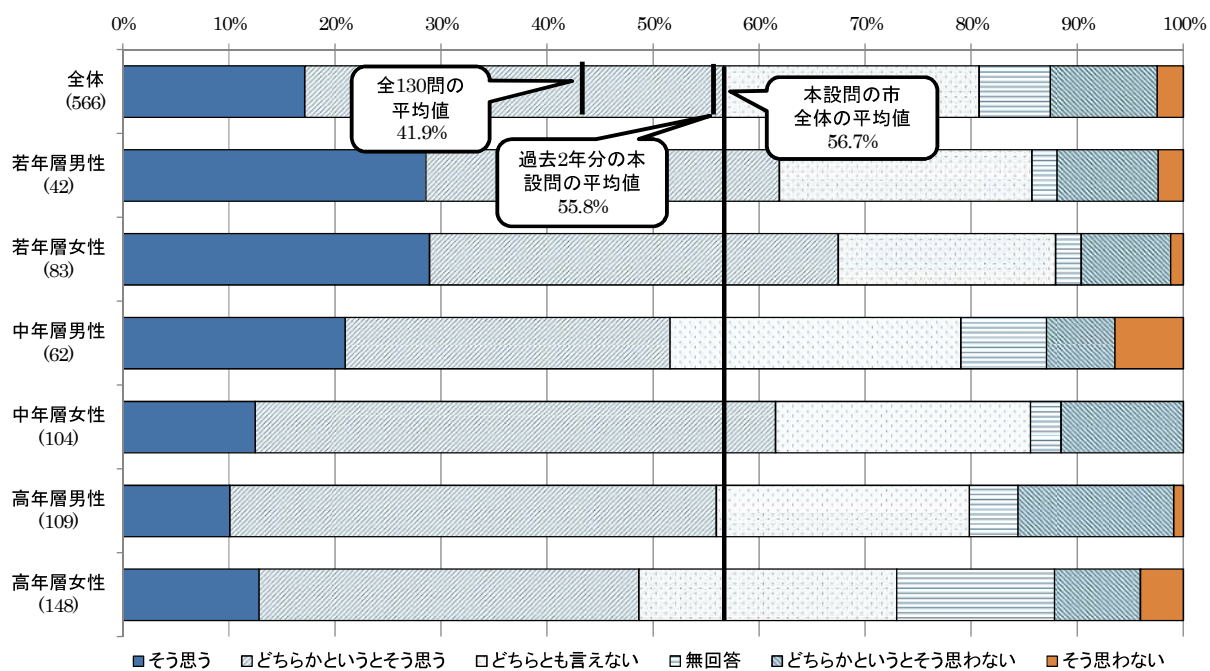
文化 生活実感（世代別・性別）

設問3：文化・芸術活動によって、京都のまち全体が活気づいている。



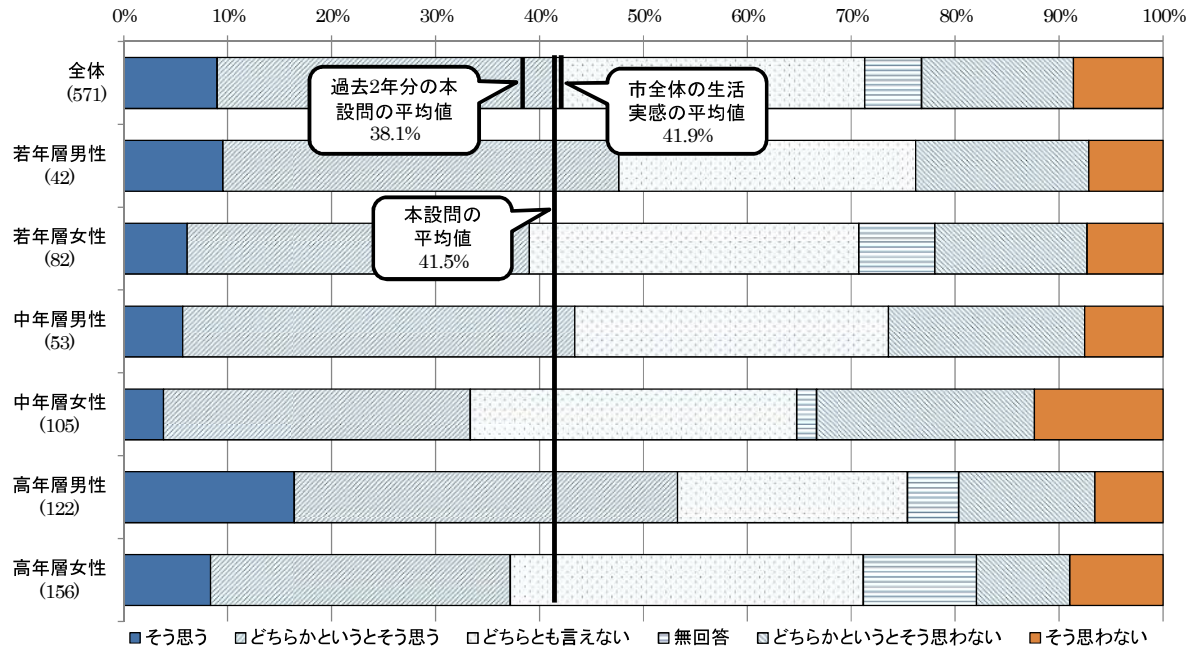
文化 生活実感（世代別・性別）

設問4：文化財が社会全体で大切にされ、地域の活性化にもつながっている。



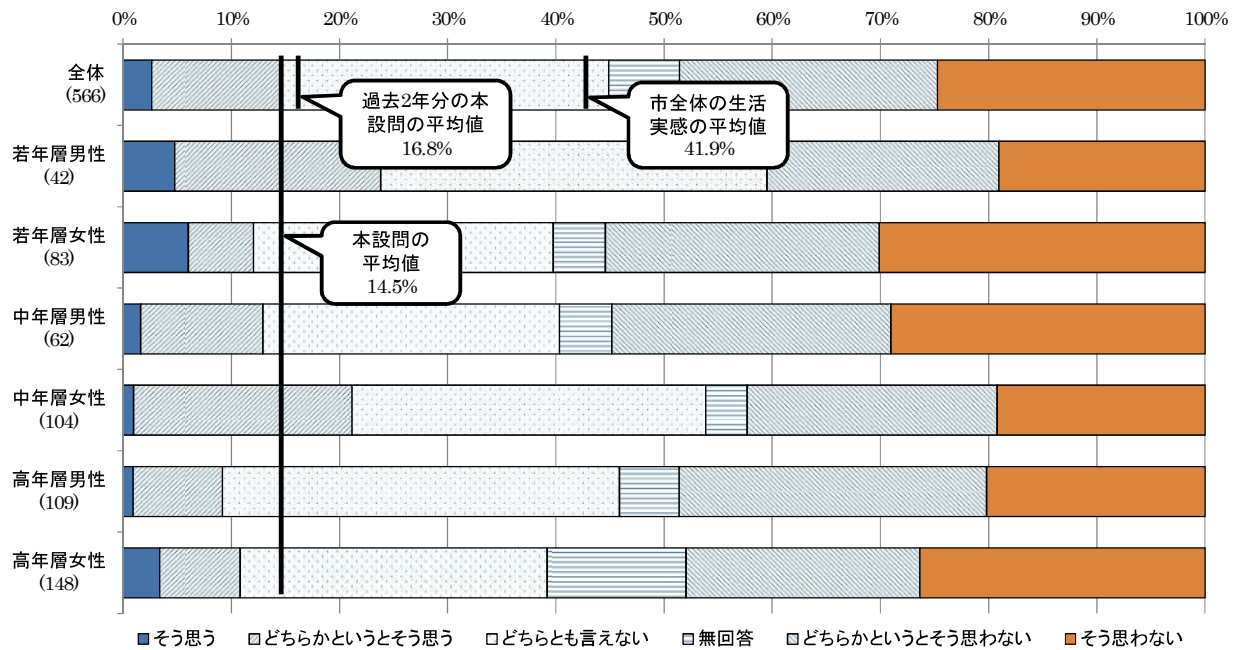
スポーツ 生活実感（世代別・性別）

設問1：気軽に体を動かしたり、スポーツやレクリエーションを楽しんだりする機会がある。



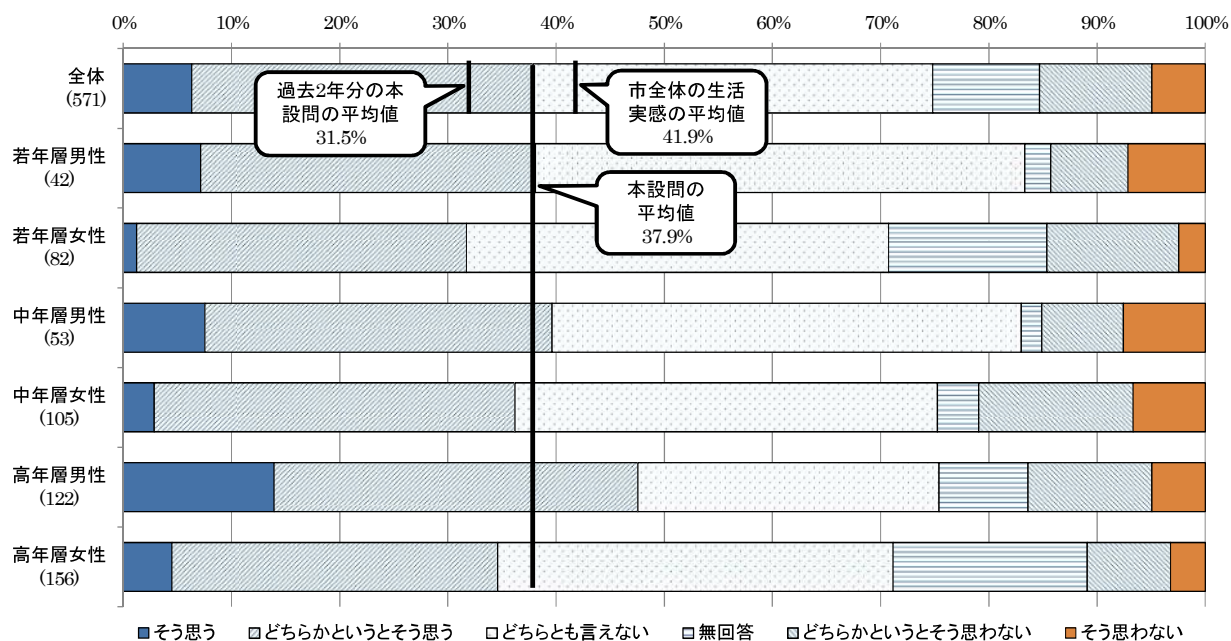
スポーツ 生活実感（世代別・性別）

設問2：プロスポーツやトップレベルのスポーツに身近に触れる機会がある。



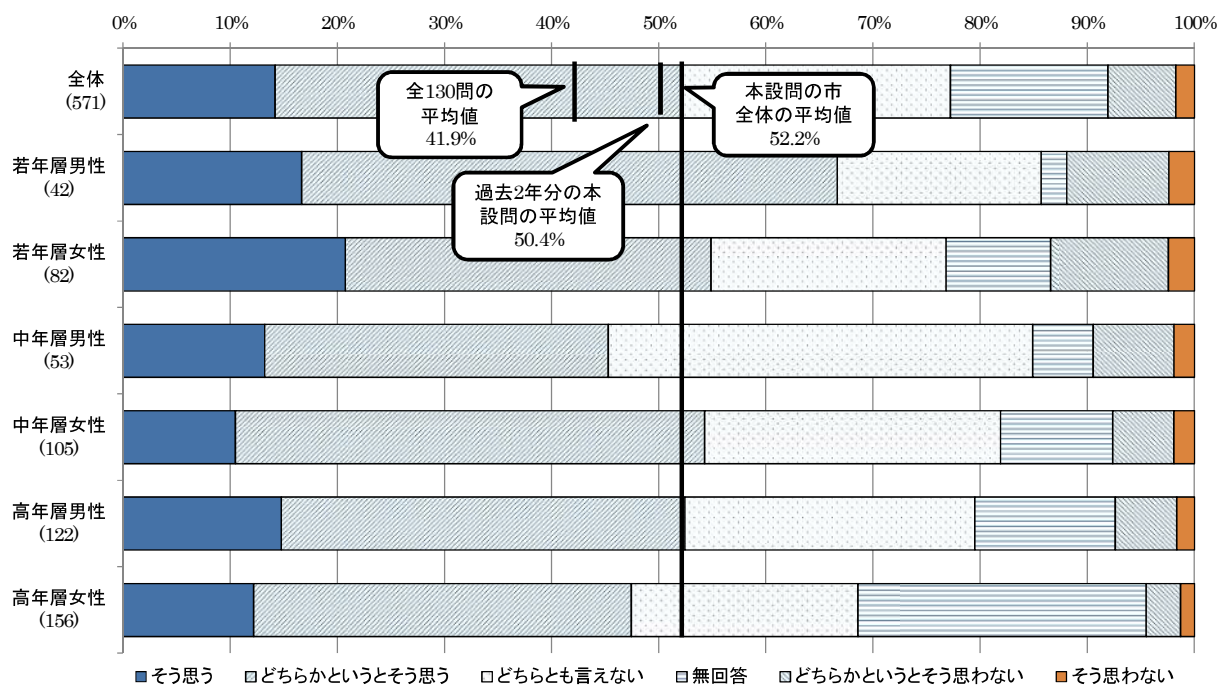
スポーツ 生活実感（世代別・性別）

設問3：スポーツイベントや運動会、レクリエーションなどの活動を、スタッフやボランティアとして支えるひとが増えている。



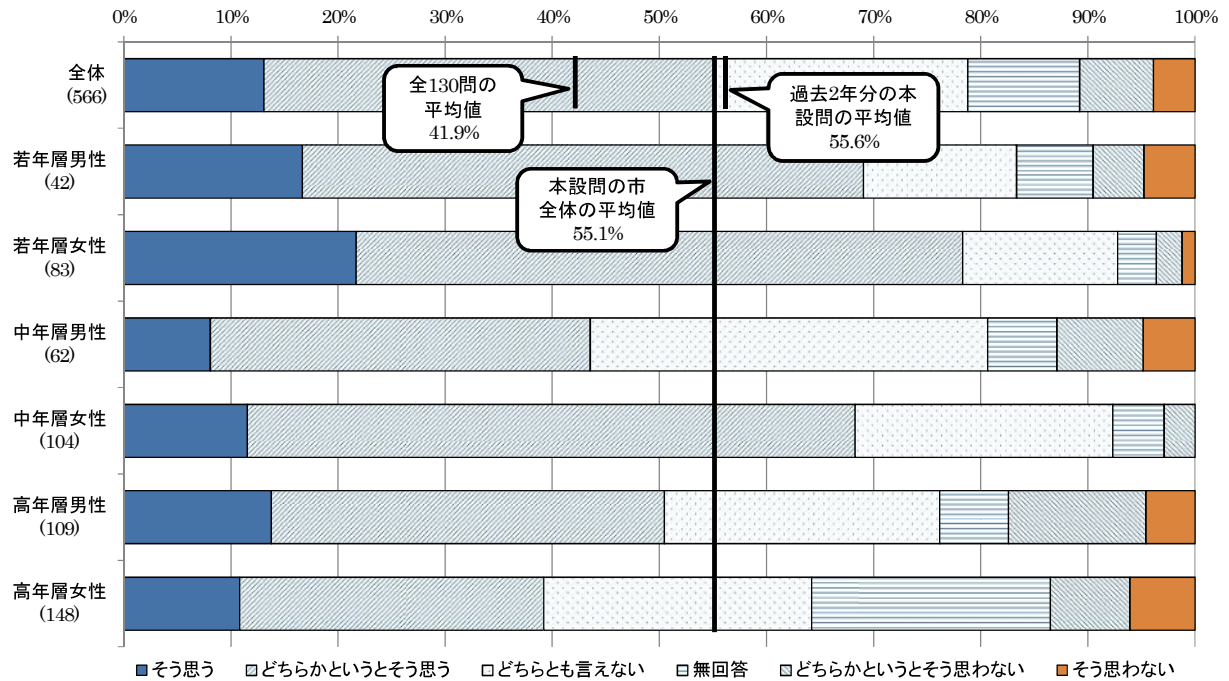
産業・商業 生活実感（世代別・性別）

設問2：京都では、価値を高めるために工夫したものづくりが行われている。



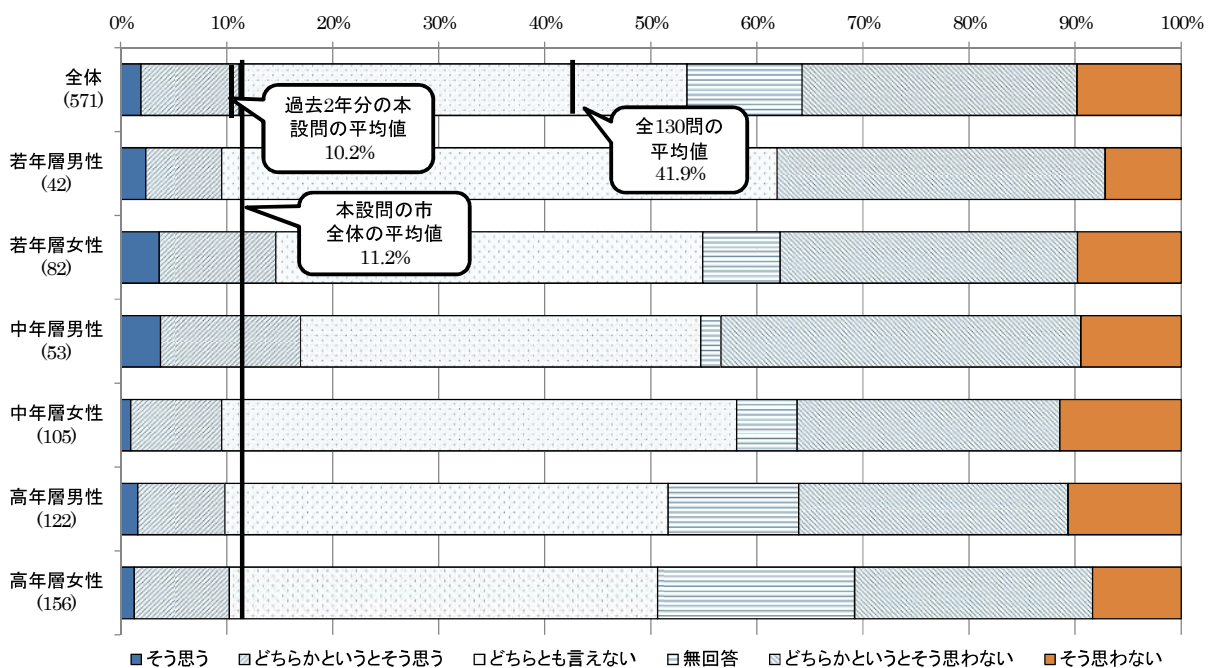
産業・商業 生活実感（世代別・性別）

設問3：京都の特色を生かした産業活動が行われている。



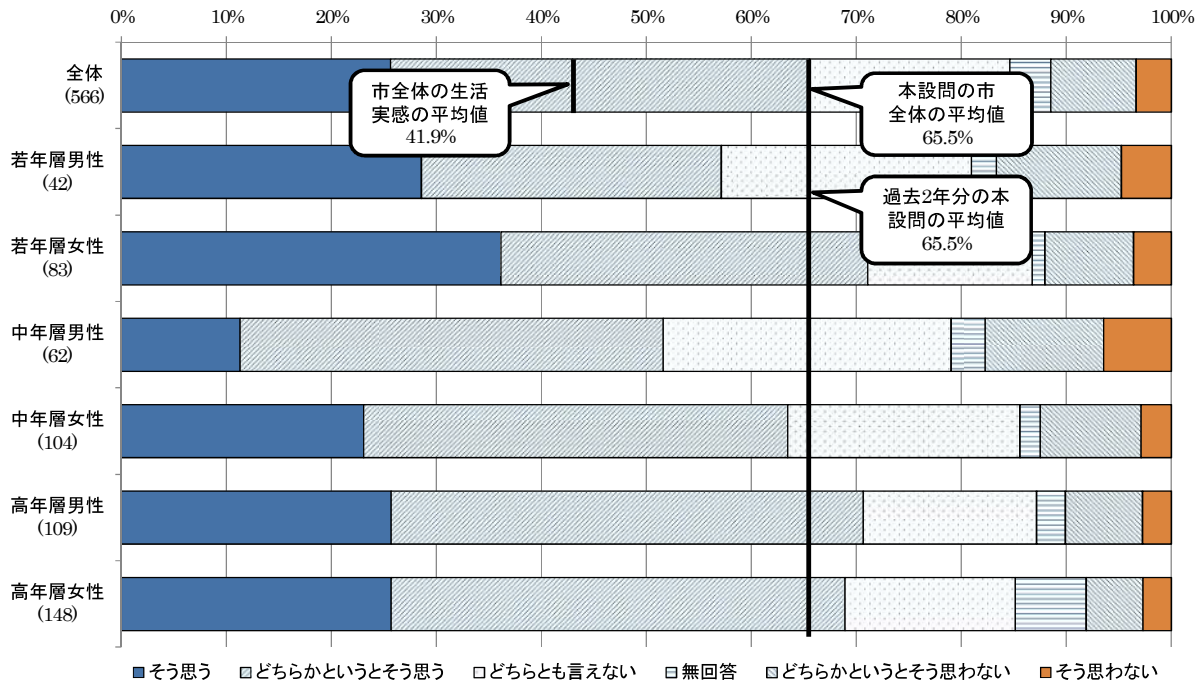
産業・商業 生活実感（世代別・性別）

設問5：働くことを希望するひとがいきいきと働ける場を得る機会がある。



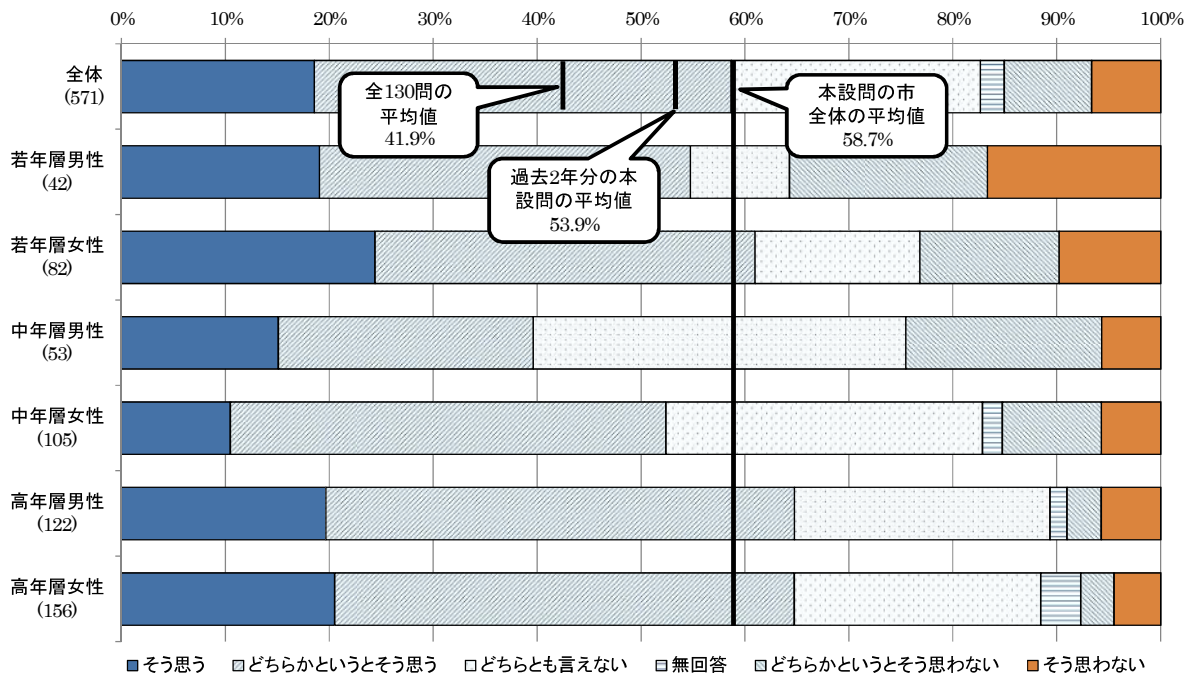
観光 生活実感（世代別・性別）

設問3：京都市民は、四季折々の京都観光を楽しんでいる。



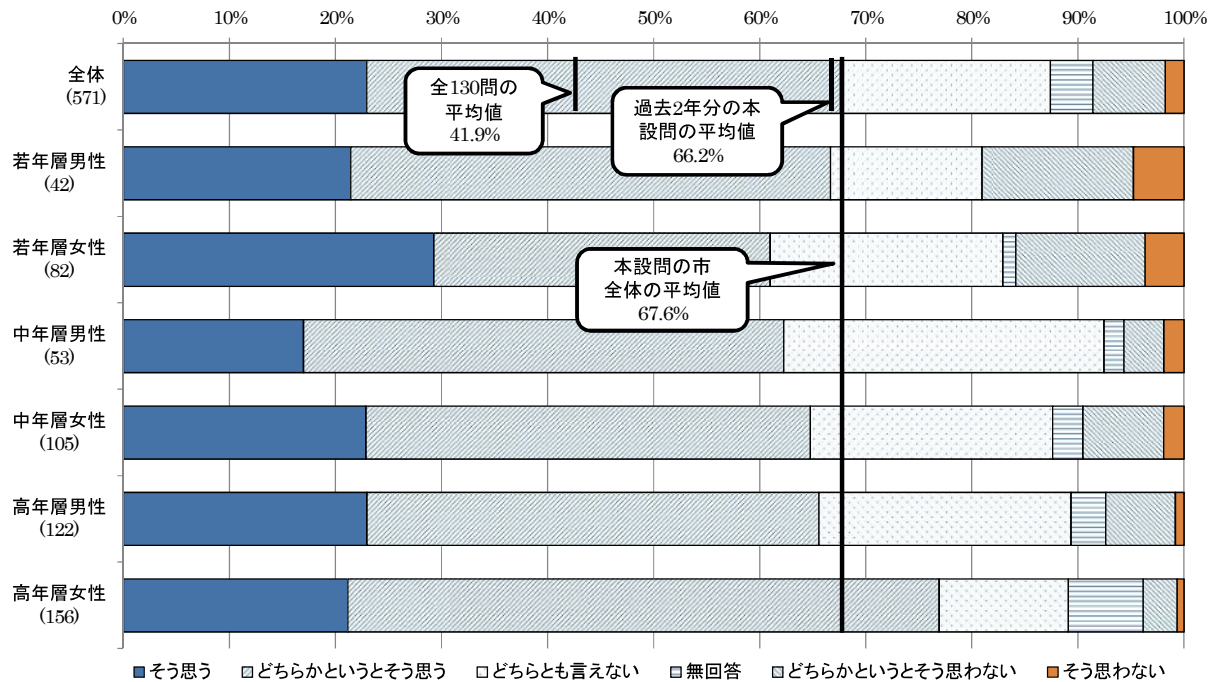
観光 生活実感（世代別・性別）

設問4：京都は、市民にとってくらしやすい観光都市である。



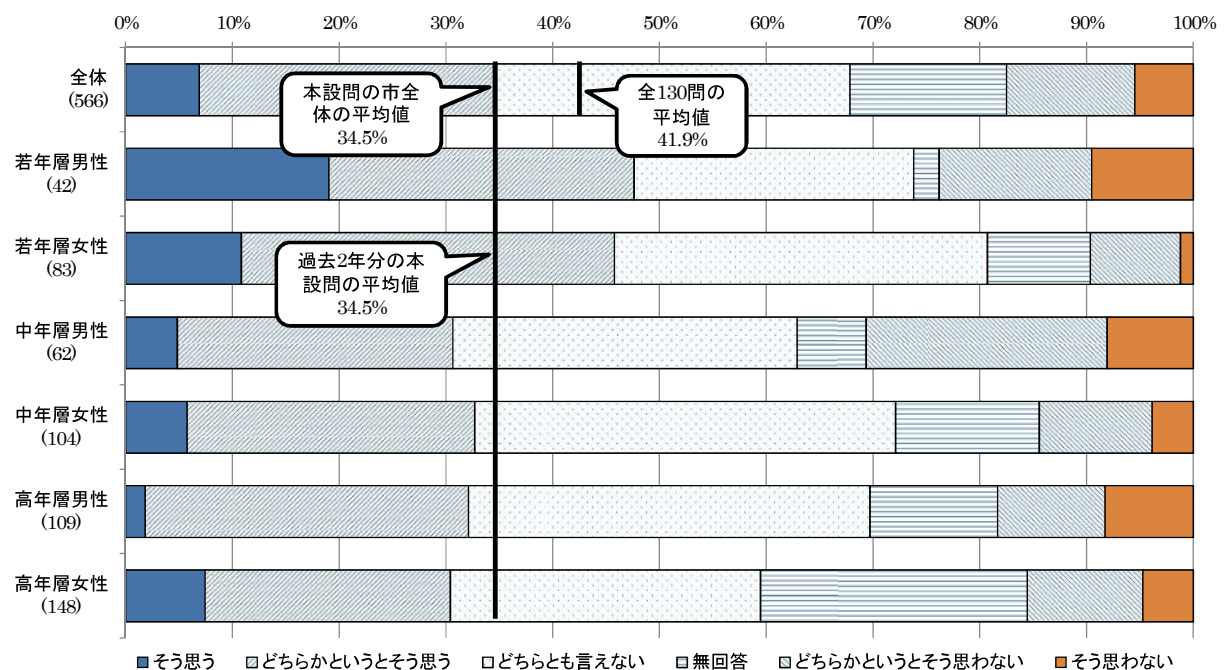
観光 生活実感（世代別・性別）

設問5：京都市民は、観光客を温かく迎えるなど、京都観光の振興に協力的である。



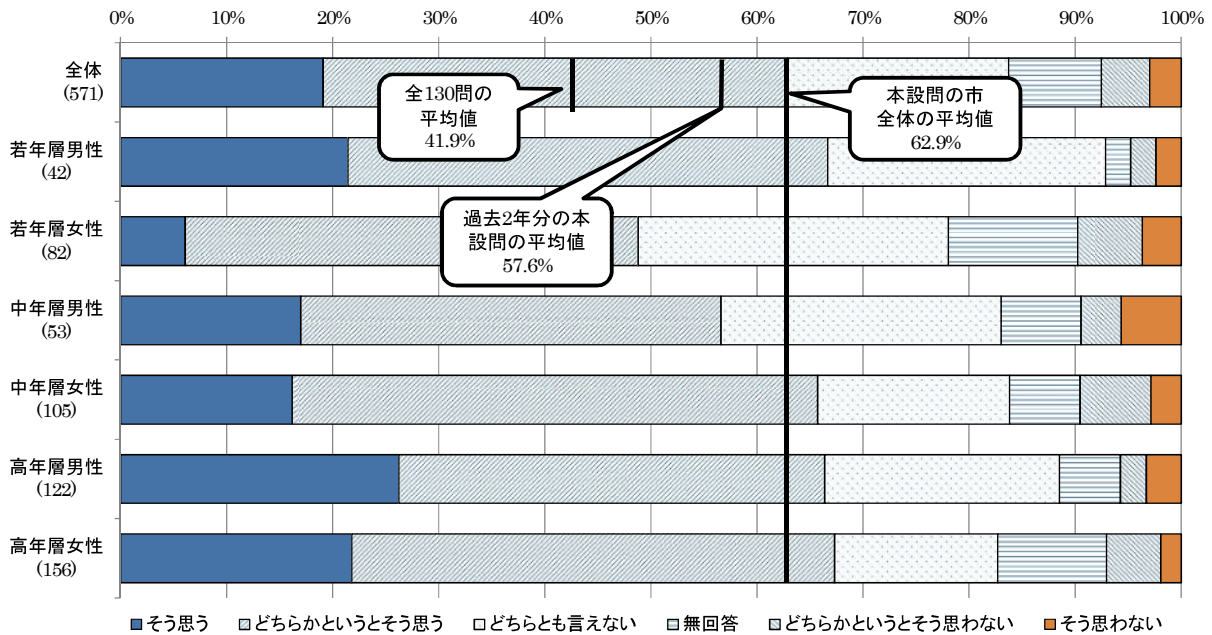
大学 生活実感（世代別・性別）

設問4：学生は、京都において社会で活躍する力を養い、そのパワーで京都のまちを活性化している。



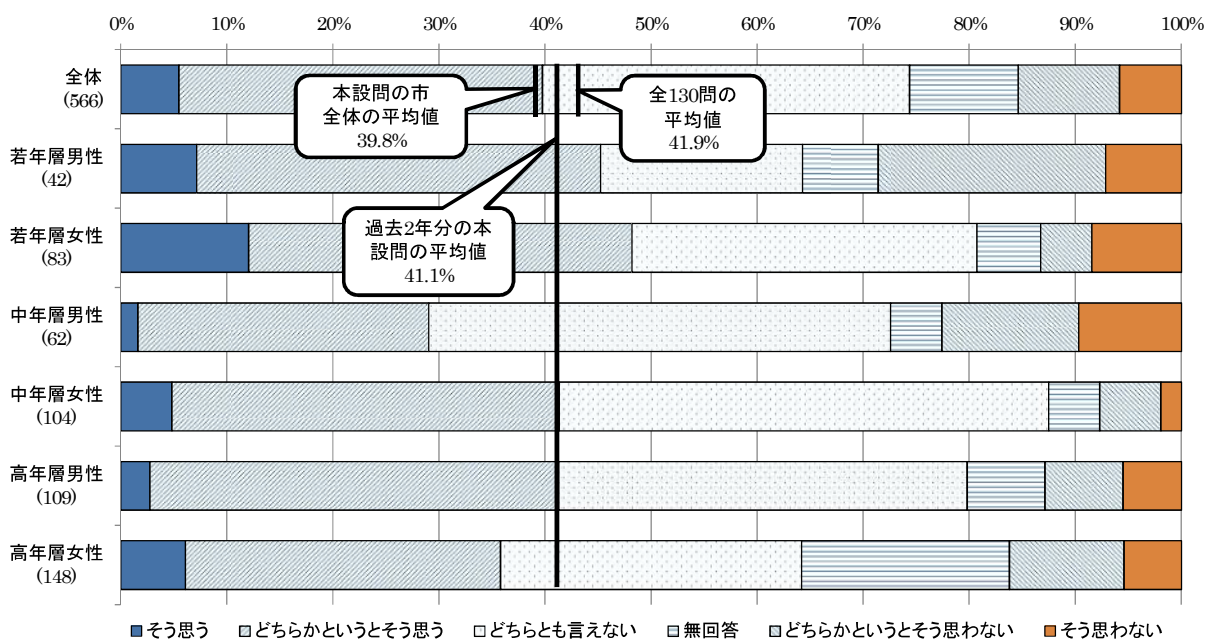
国際化 生活実感（世代別・性別）

設問2：京都は、文化資産の継承、環境にやさしい取組などを通して、平和都市として国際社会に貢献している。



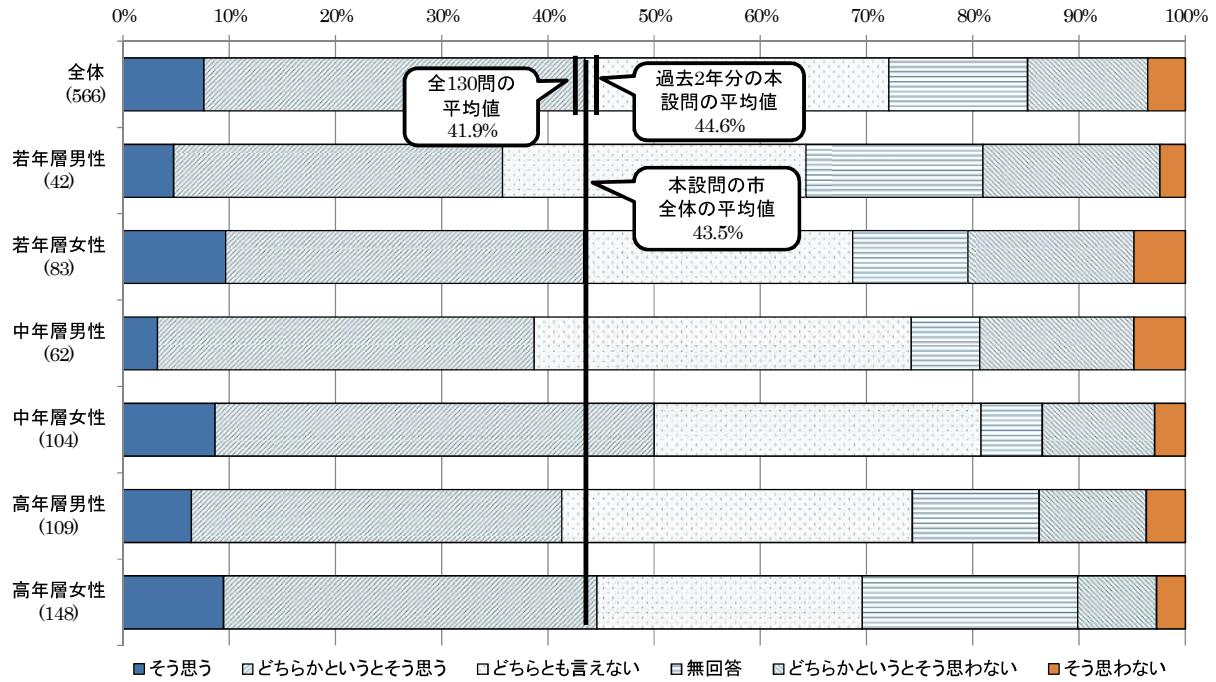
国際化 生活実感（世代別・性別）

設問3：国籍、民族、文化等が違っていても互いに理解し合い、ともにいきいきとくらするまちになっている。



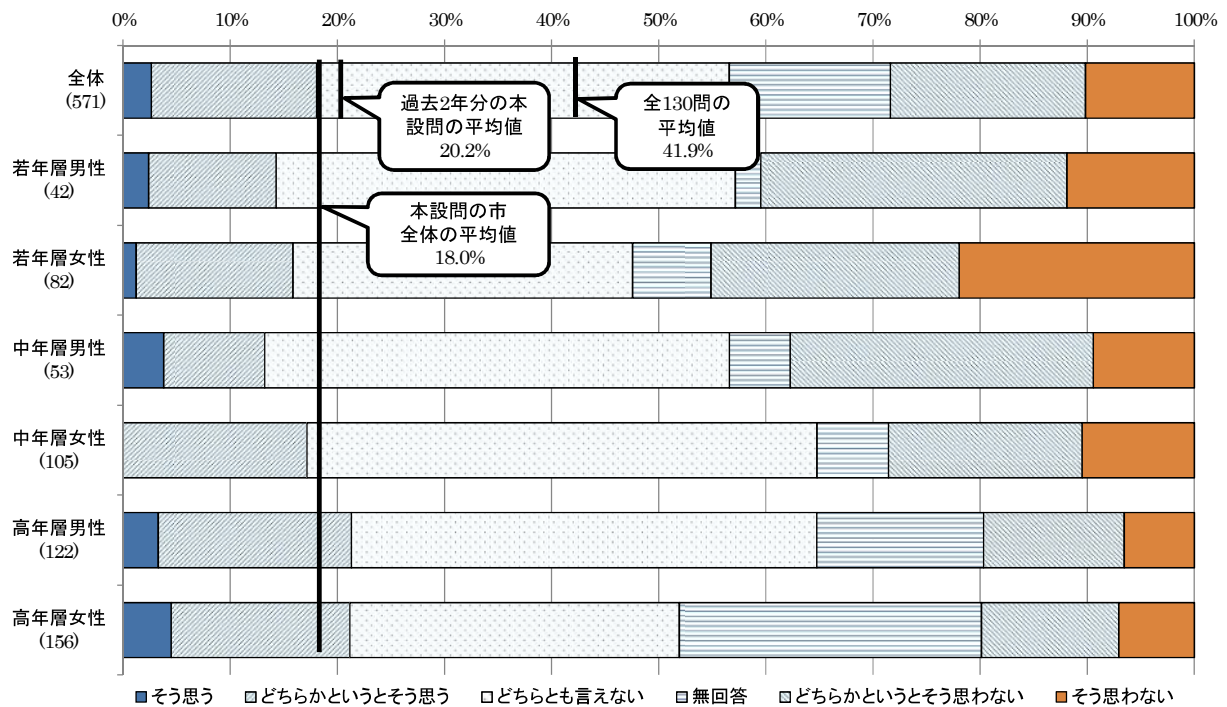
子育て支援 生活実感（世代別・性別）

設問3：必要なときに健康相談を受けたり、病院に行けたり、安心して子どもを
 生み育てることができる。



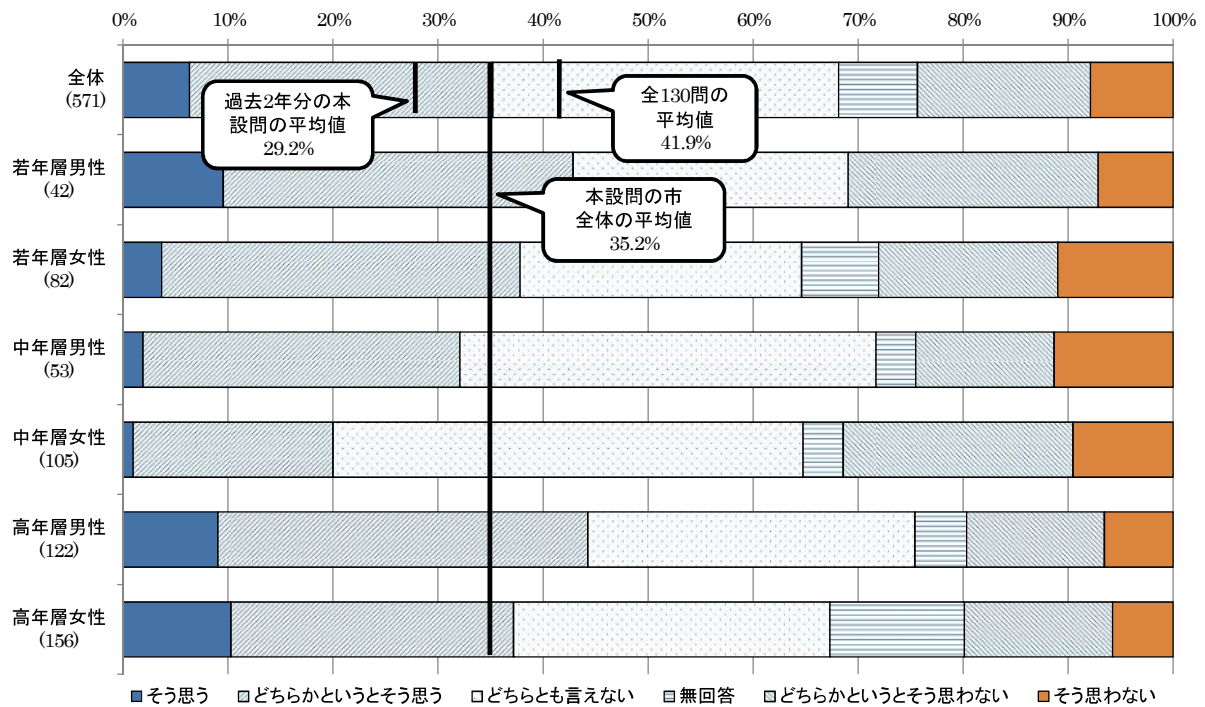
子育て支援 生活実感（世代別・性別）

設問4：働き方の見直しや男性の育児参加など、仕事と子育ての両立に取り組む
 ひとや企業が増えている。



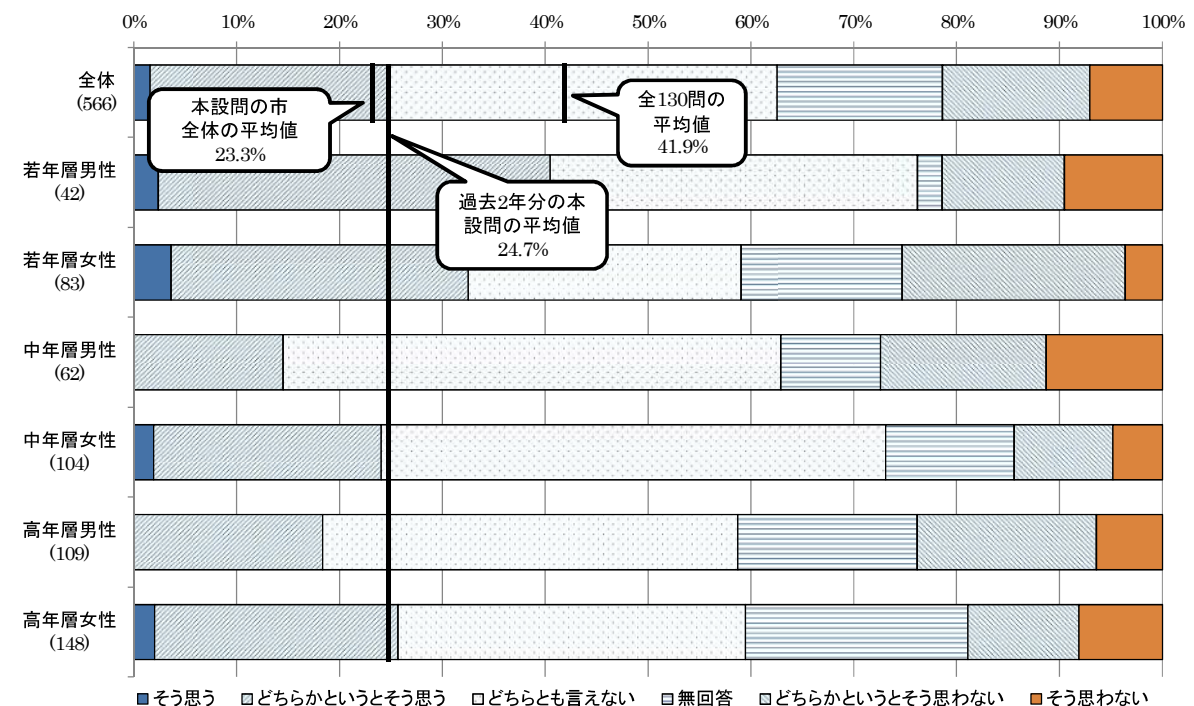
障害者福祉 生活実感（世代別・性別）

設問4：バリアフリーなどの生活しやすい社会環境の整備が進み、くらしやすいまちになっている。



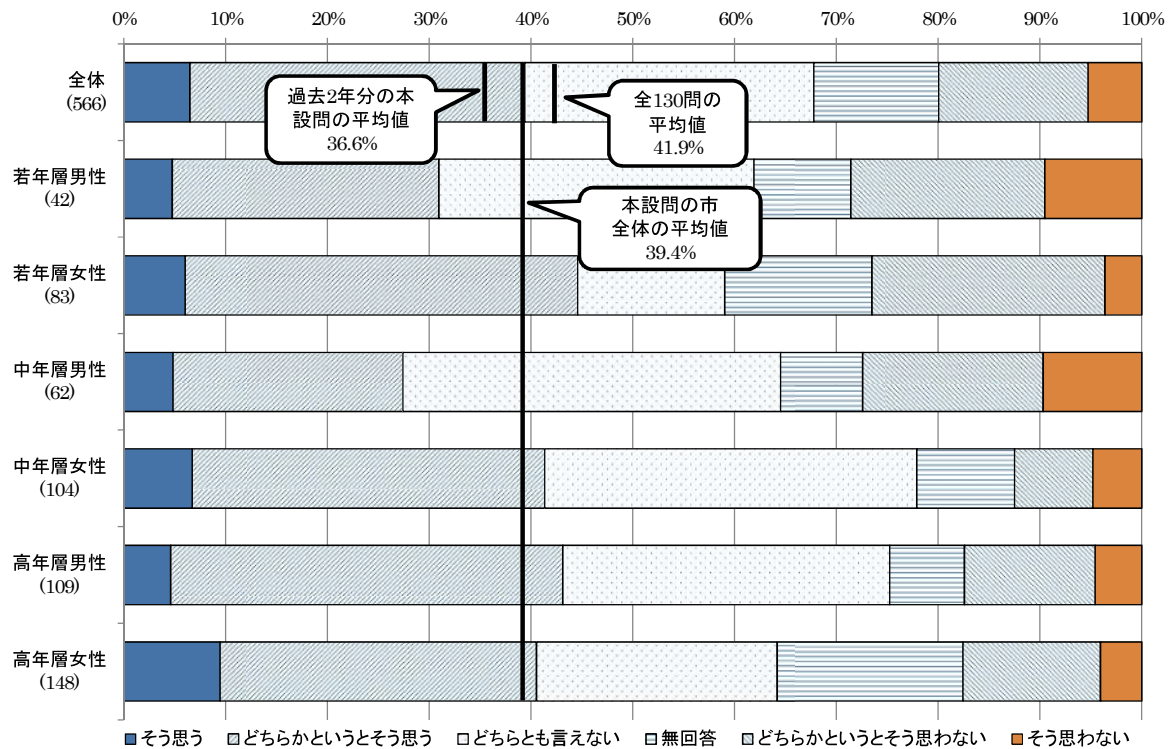
地域福祉 生活実感（世代別・性別）

設問2：地域福祉活動などのボランティア活動に参加しやすい地域づくりが進んでいる。



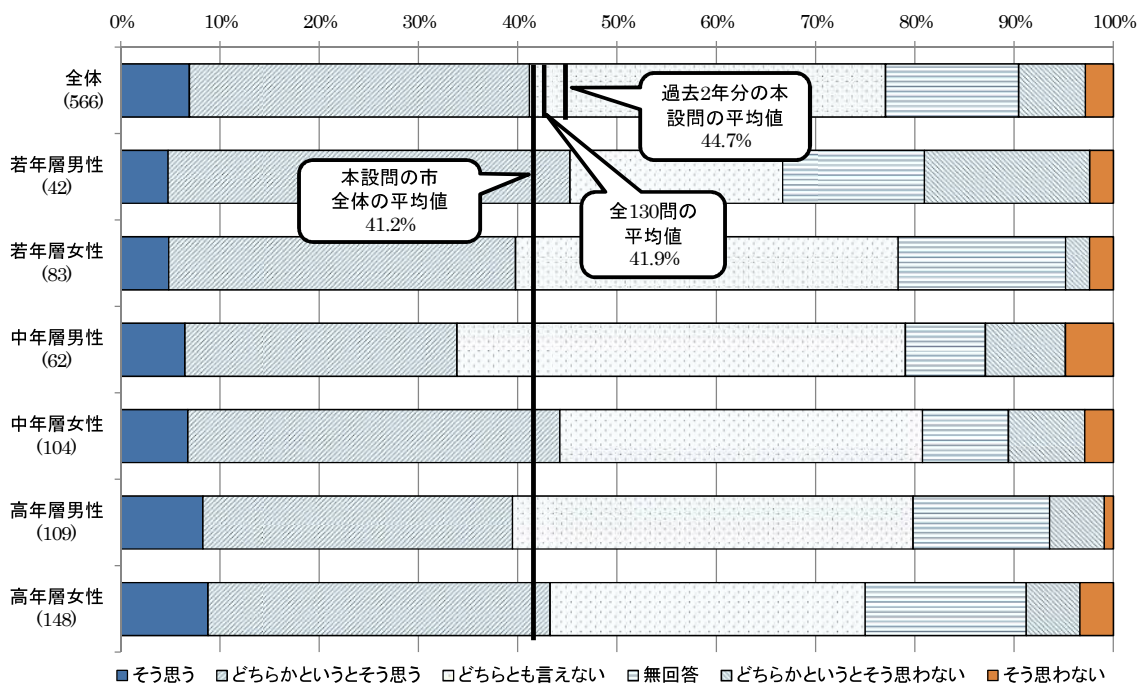
地域福祉 生活実感（世代別・性別）

設問4：地域のつながりが福祉活動や防犯・防災の取組に役立っている。



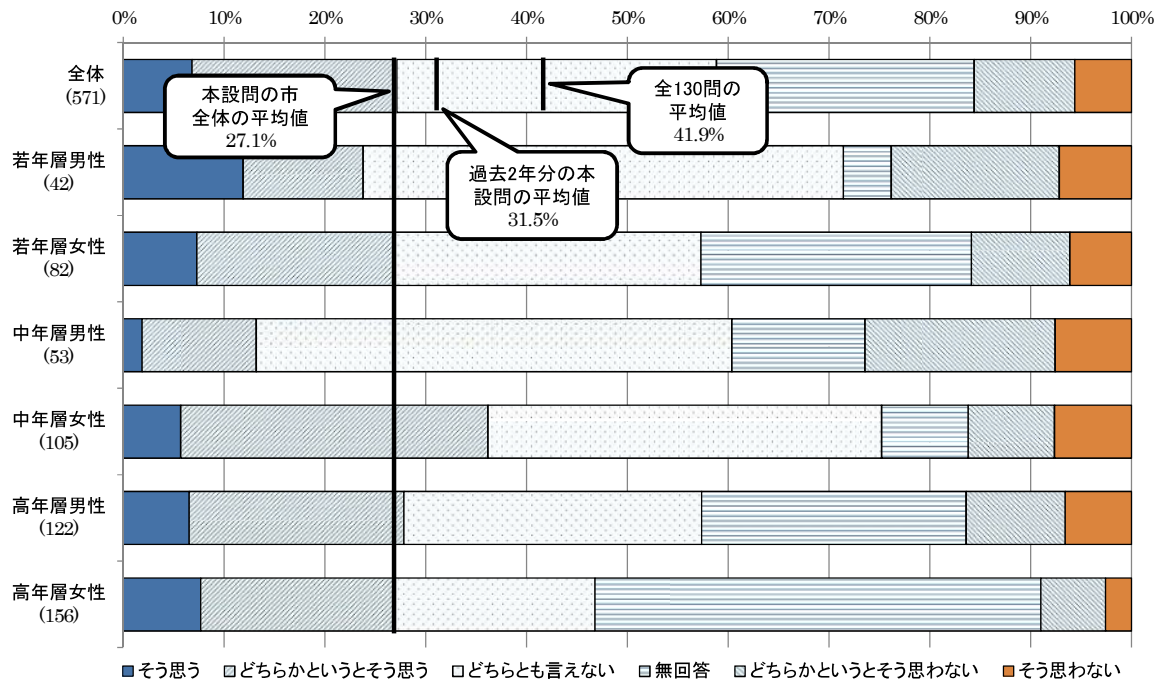
保健衛生・医療 生活実感（世代別・性別）

設問1：正しい情報を基に、健康づくりに取り組むひとが増えている。



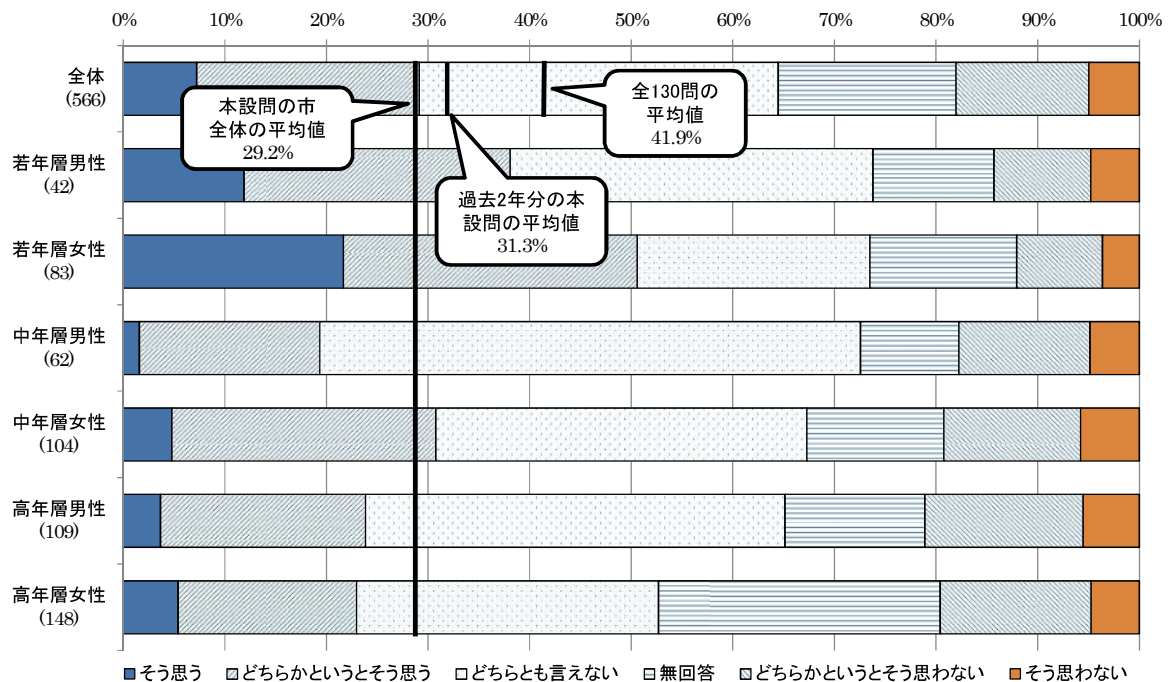
学校教育 生活実感（世代別・性別）

設問3：学校の先生は、他校の先生、保護者や地域のひとびとと連携して、子どもの教育に取り組んでいる。



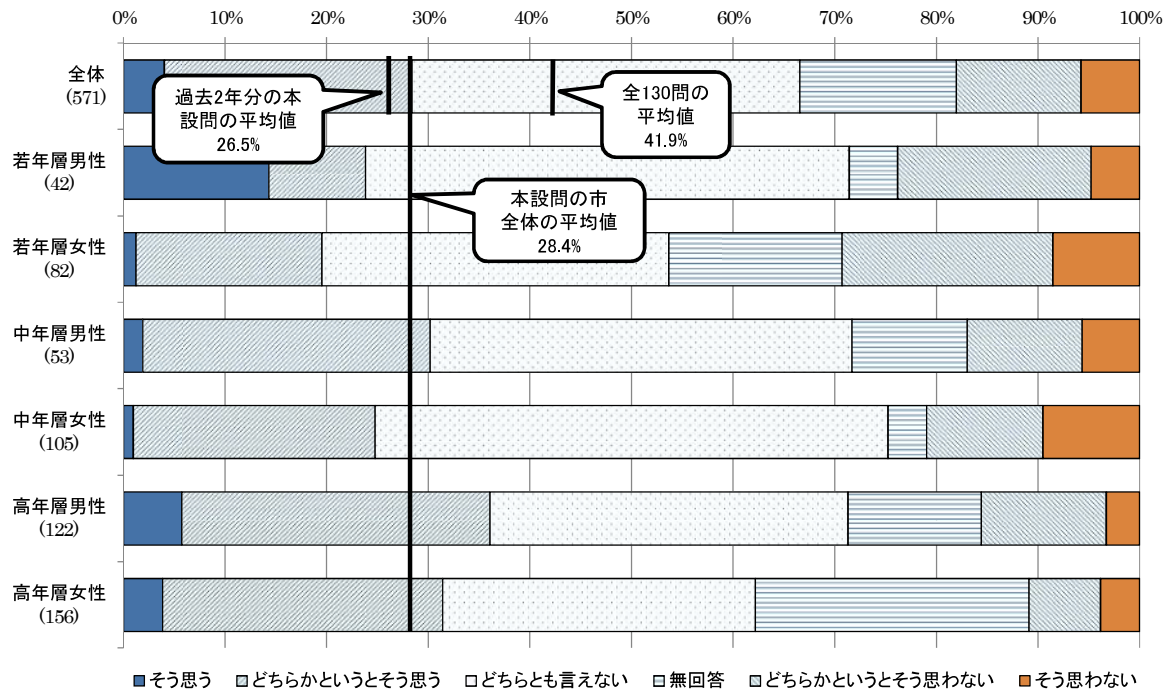
生涯学習 生活実感（世代別・性別）

設問3：地域での取組において、幅広い世代がともに学べる機会が充実している。



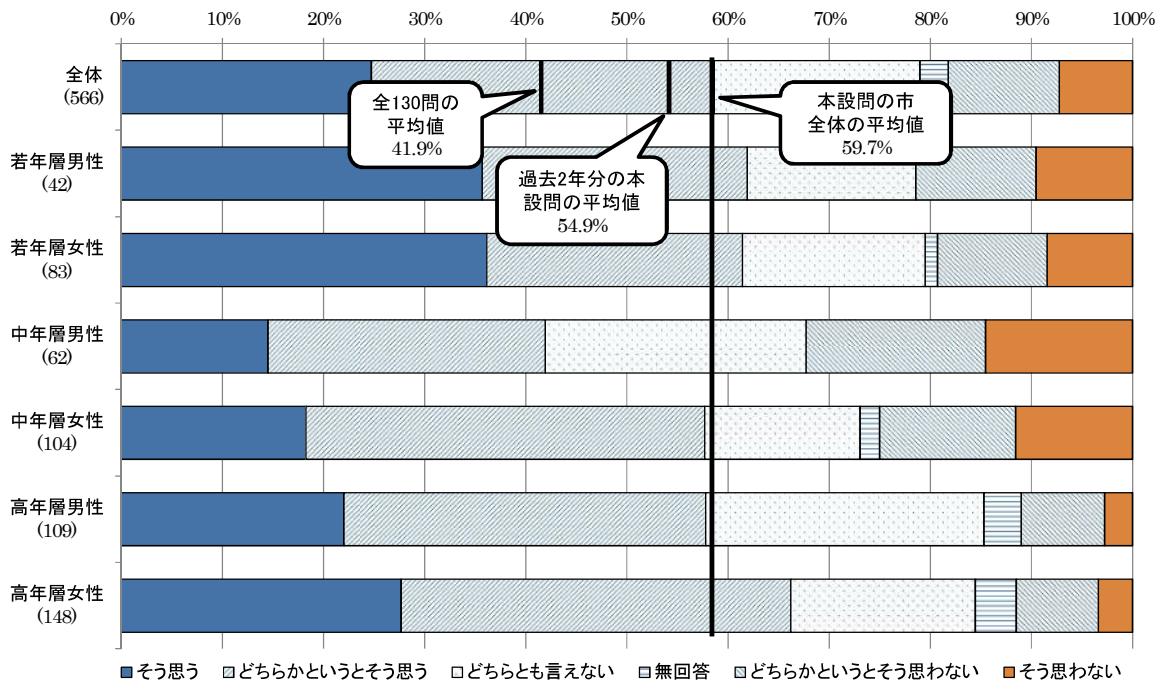
生涯学習 生活実感（世代別・性別）

設問4：子どもを社会の宝として社会全体で育む意識と行動が広がっている。



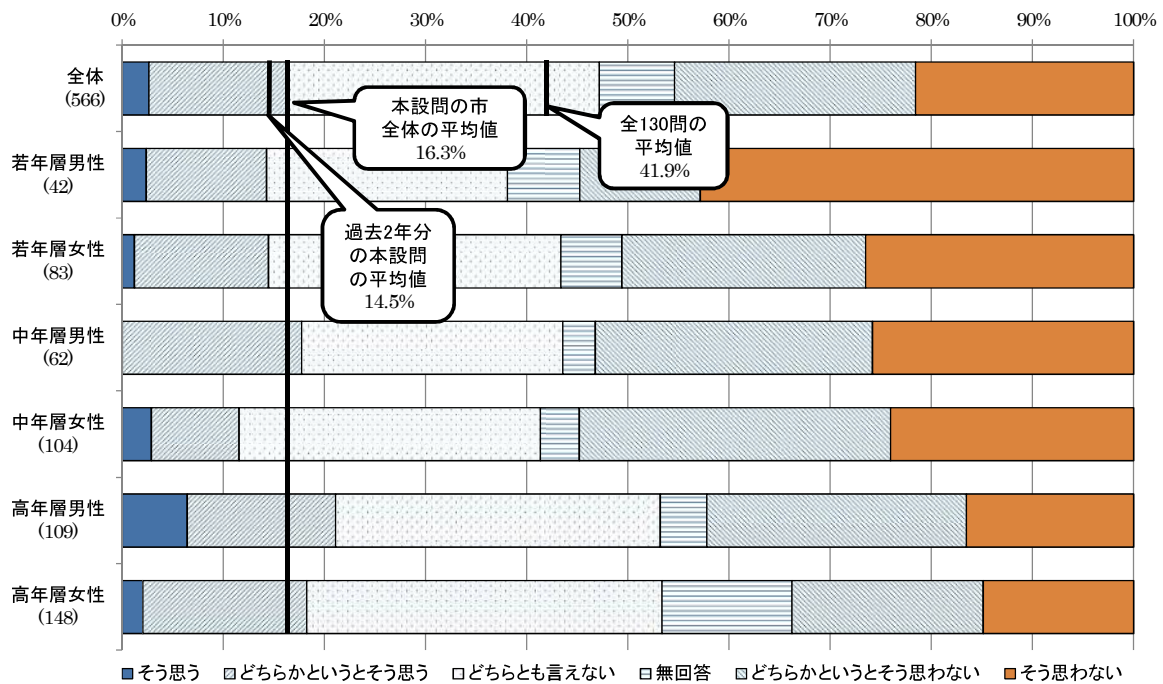
歩くまち 生活実感（世代別・性別）

設問2：京都での移動には、公共交通が便利である。



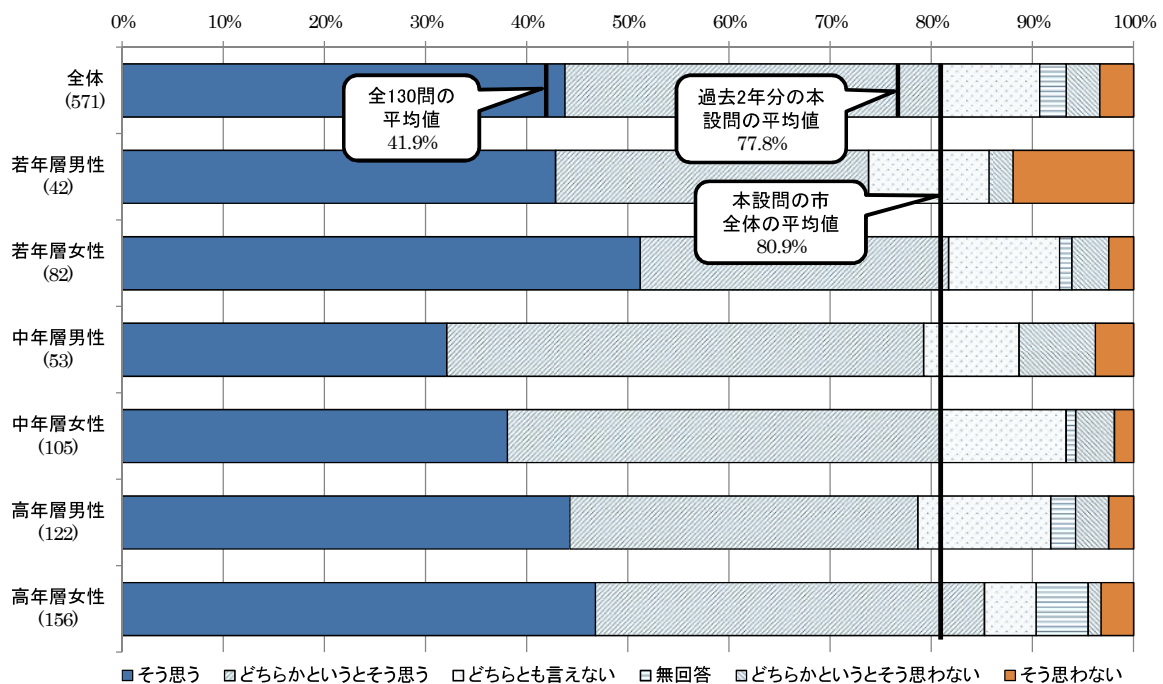
歩くまち 生活実感（世代別・性別）

設問4：まちなかや観光地において、自動車による渋滞が減っている。



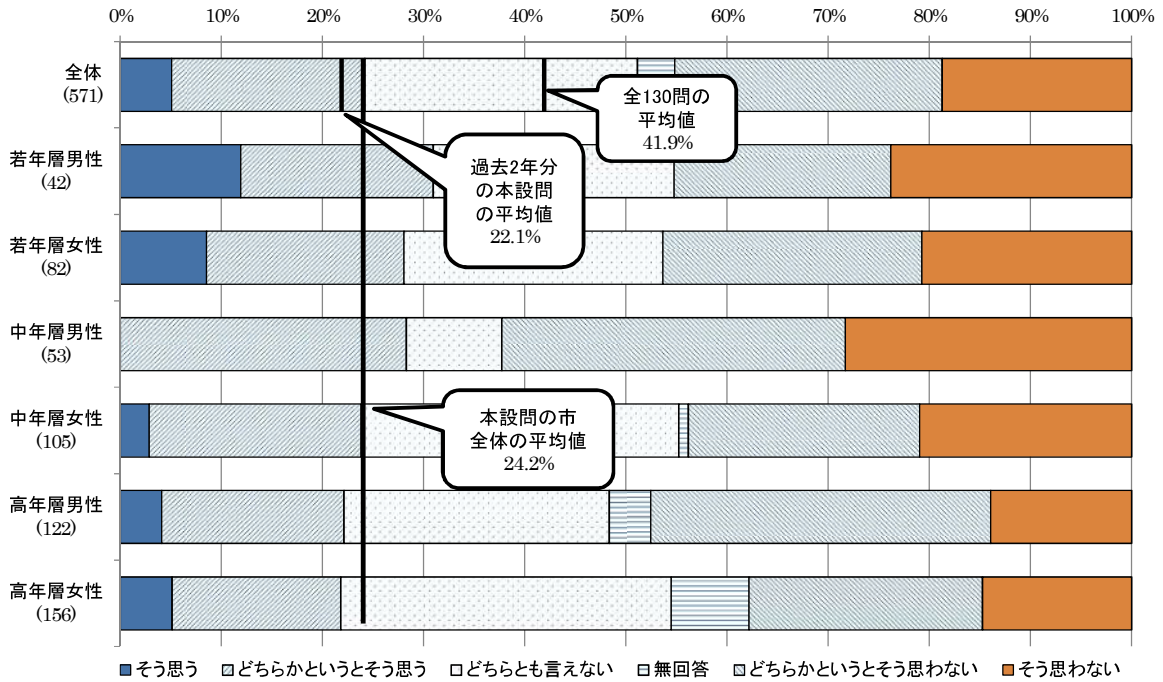
歩くまち 生活実感（世代別・性別）

設問5：地下鉄、市バスは、市民生活に役立っている。



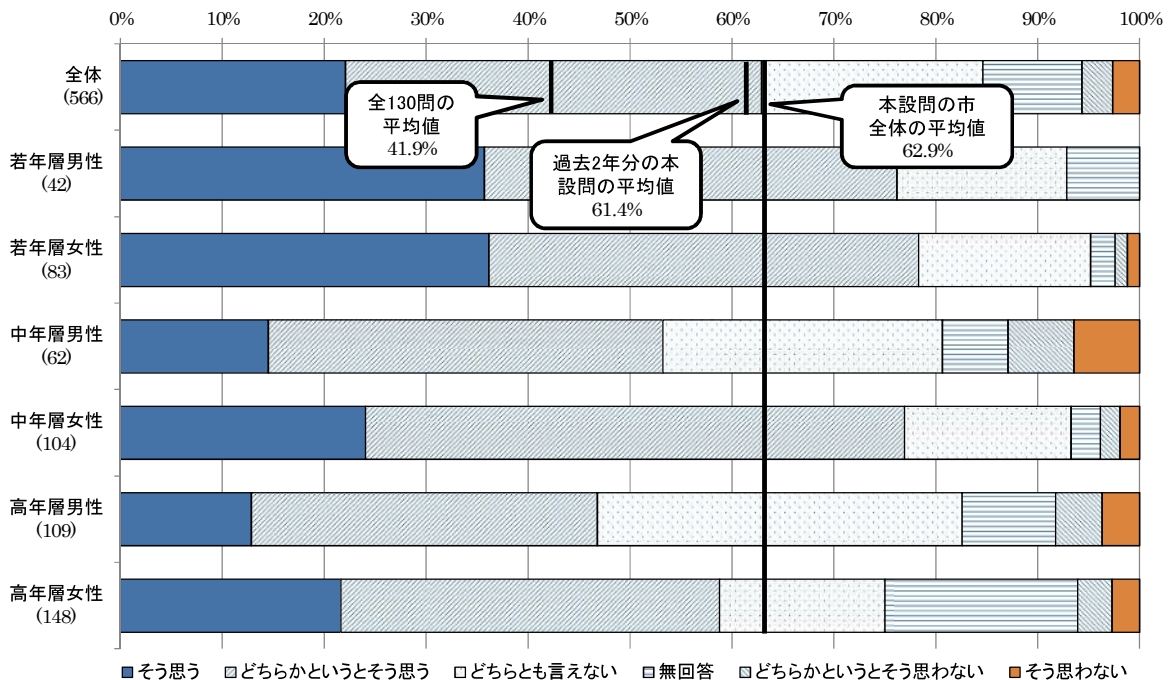
歩くまち 生活実感（世代別・性別）

設問6：駐輪場の整備や自転車の利用マナーの向上により、自転車と歩行者が共存できている。



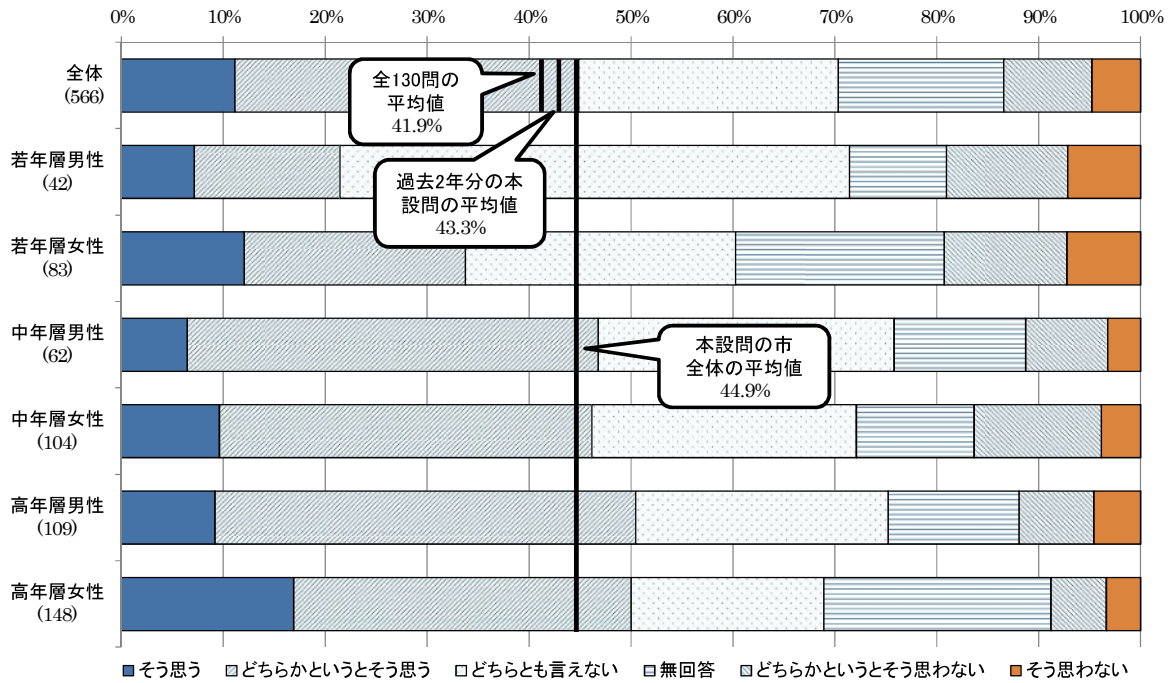
土地利用と都市機能配置 生活実感（世代別・性別）

設問2：田の字地域や京都駅の周辺は、にぎわいのある魅力的な地域である。



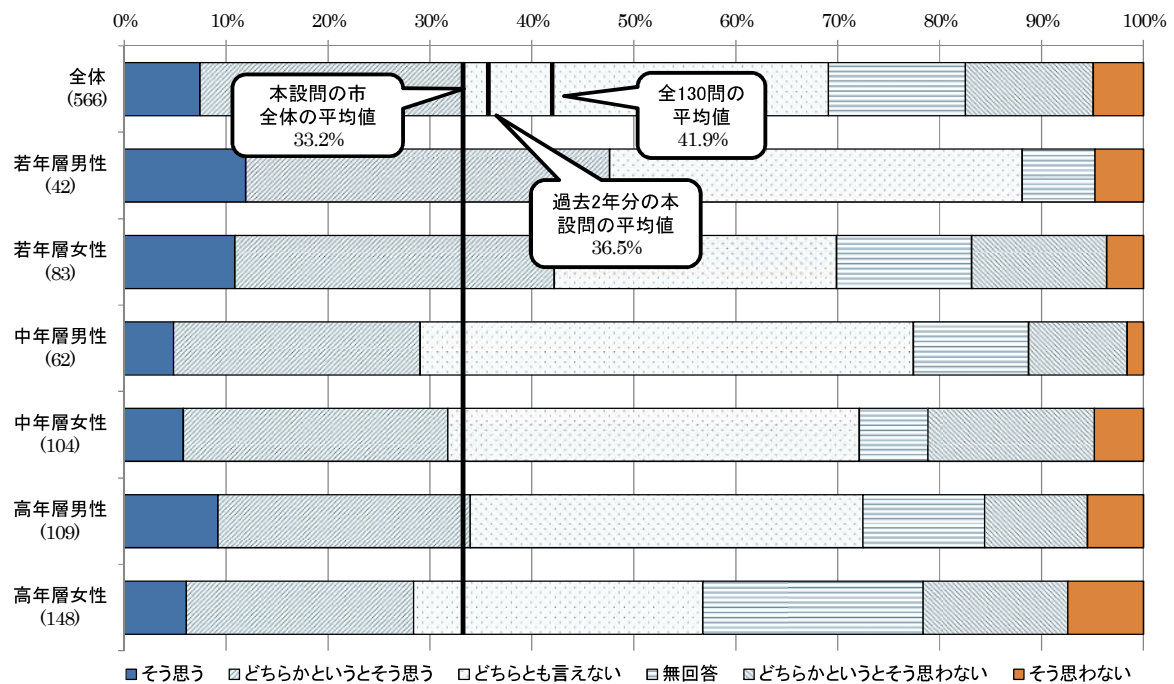
土地利用と都市機能配置 生活実感（世代別・性別）

設問3：京都のまちの南部地域が発展してきている。



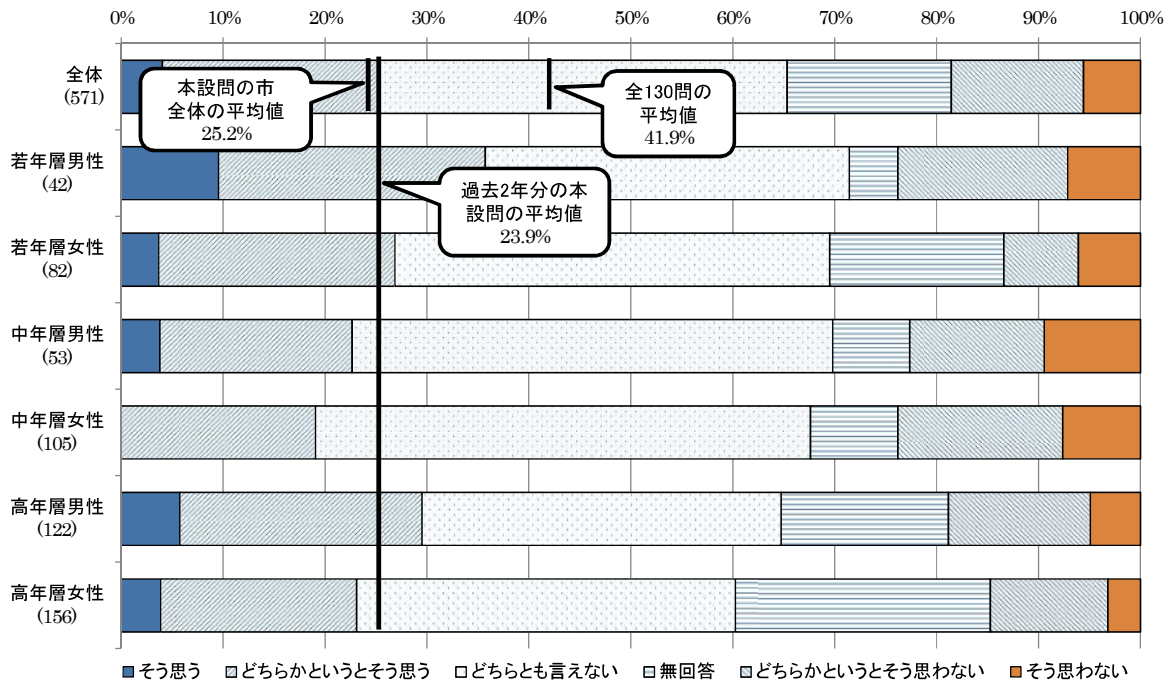
土地利用と都市機能配置 生活実感（世代別・性別）

設問4：身近な地域が魅力的になっている。



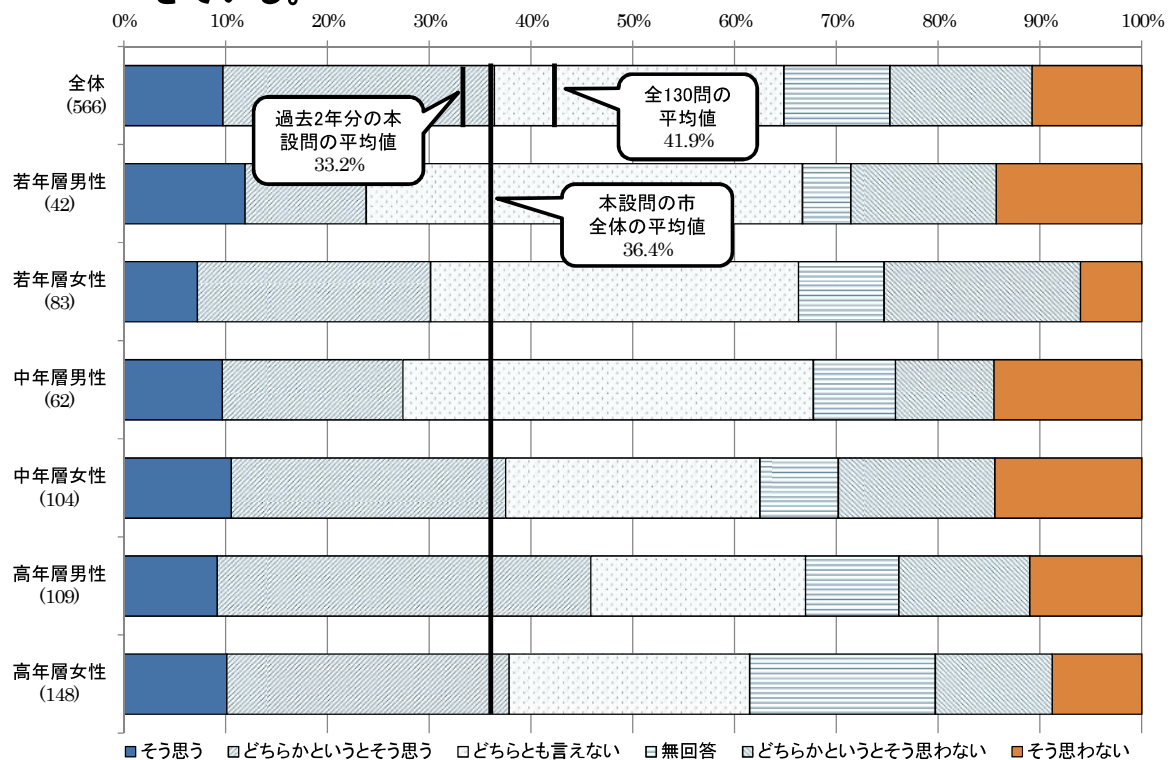
土地利用と都市機能配置 生活実感（世代別・性別）

設問5：身近な地域で、自主的なまちづくり活動が進んでいる。



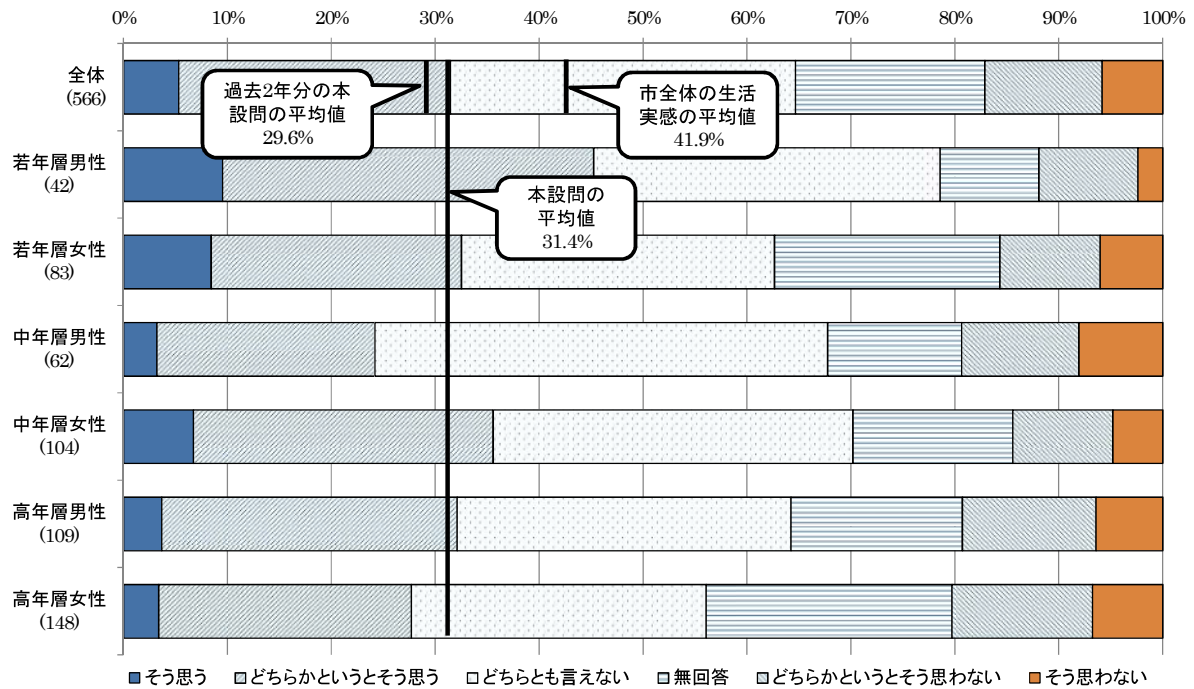
景観 生活実感（世代別・性別）

設問4：大通りや歴史的地区から電柱が取り除かれ、美しい公共空間が増えてきている。



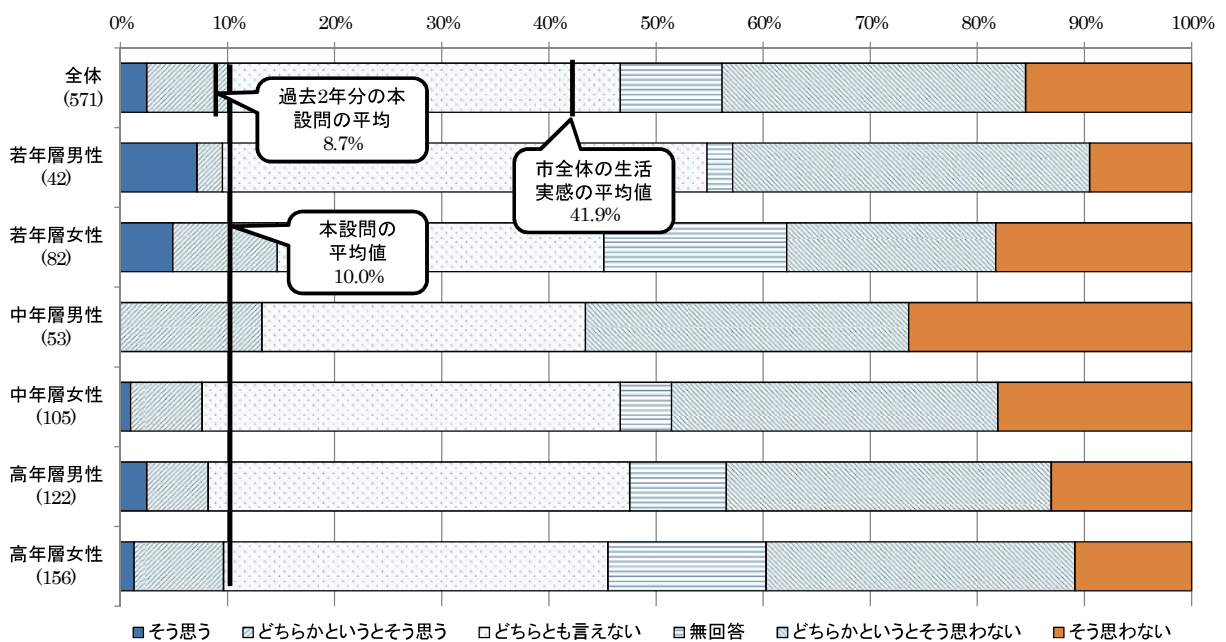
建築物 生活実感（世代別・性別）

設問3：地震や火災に強い建物が増えている。



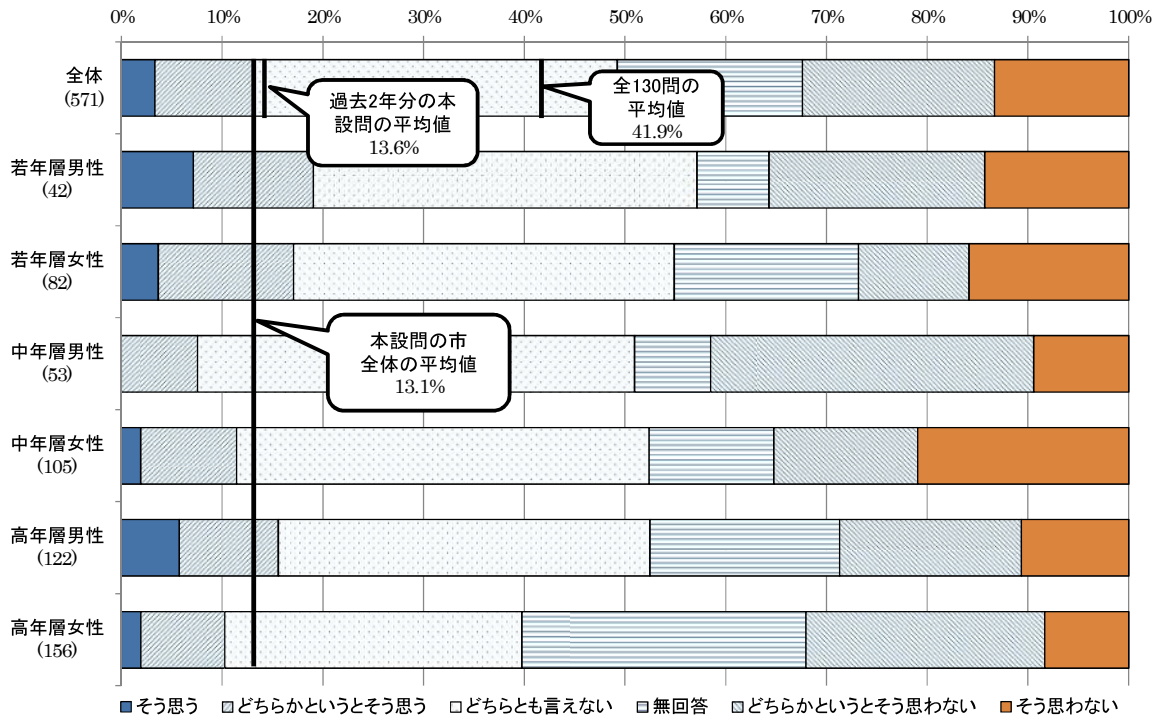
建築物 生活実感（世代別・性別）

設問4：身近な地域にある細い道は、地震や火災などの災害時に被害が大きくなるように改善されている。



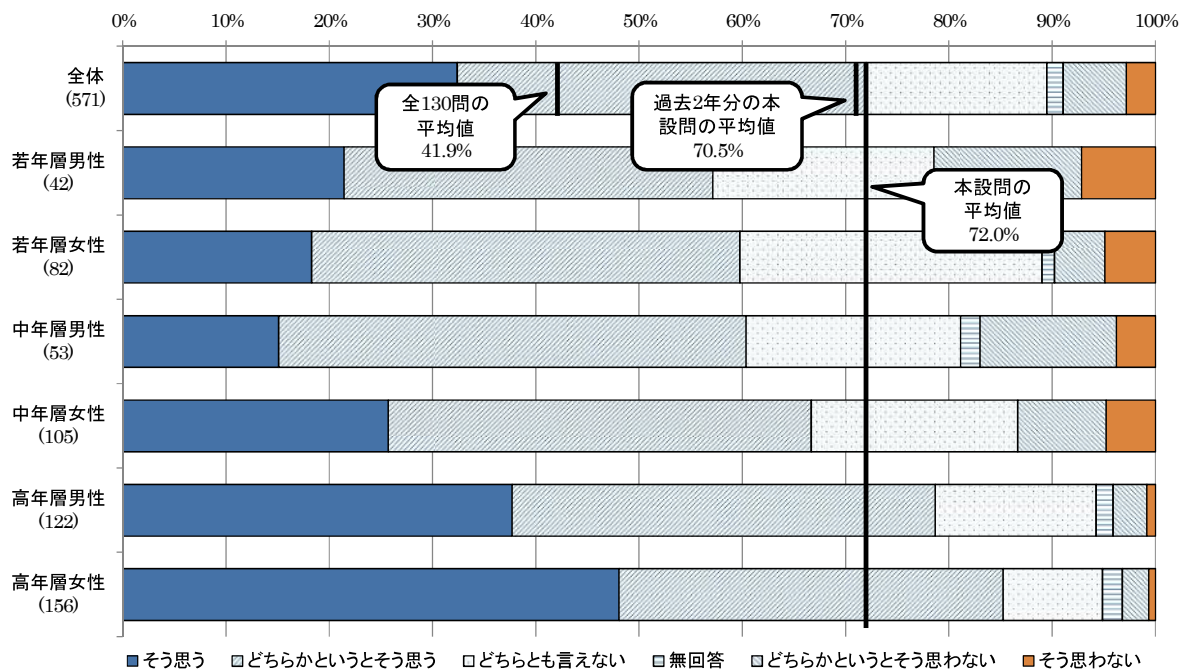
住宅 生活実感（世代別・性別）

設問4：低所得者や高齢者などがくらしやすい市営住宅や民間賃貸住宅が十分に確保されている。



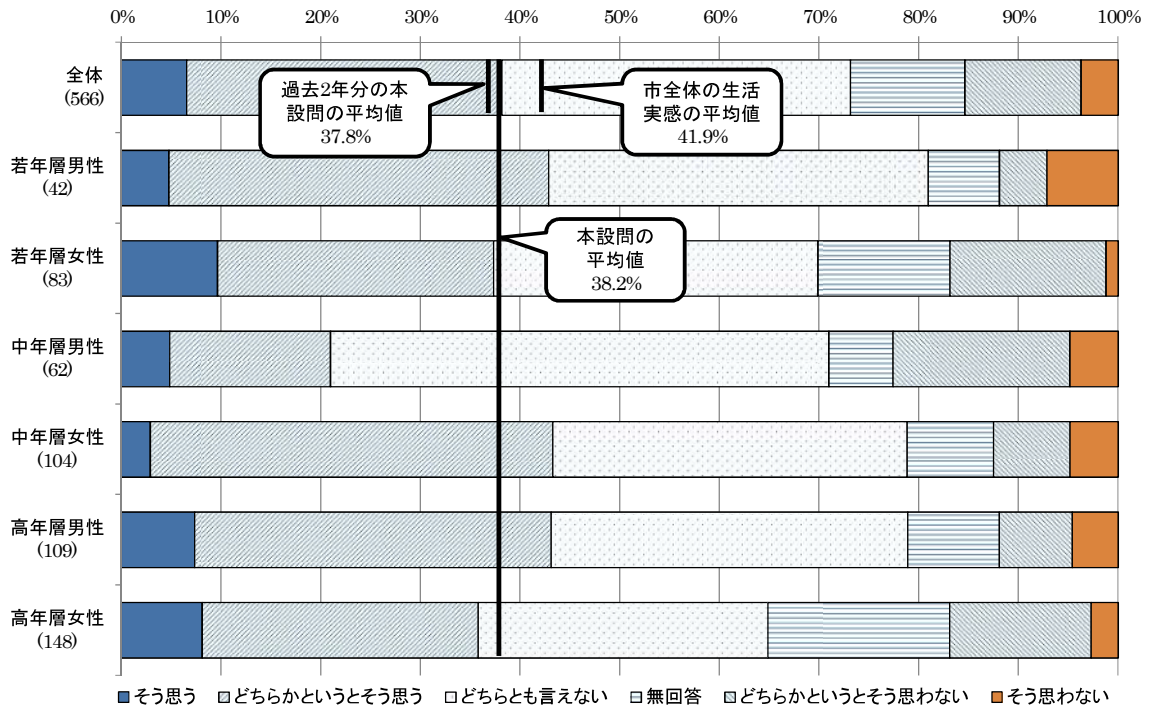
道と緑 生活実感（世代別・性別）

設問2：京都是緑が豊かである。



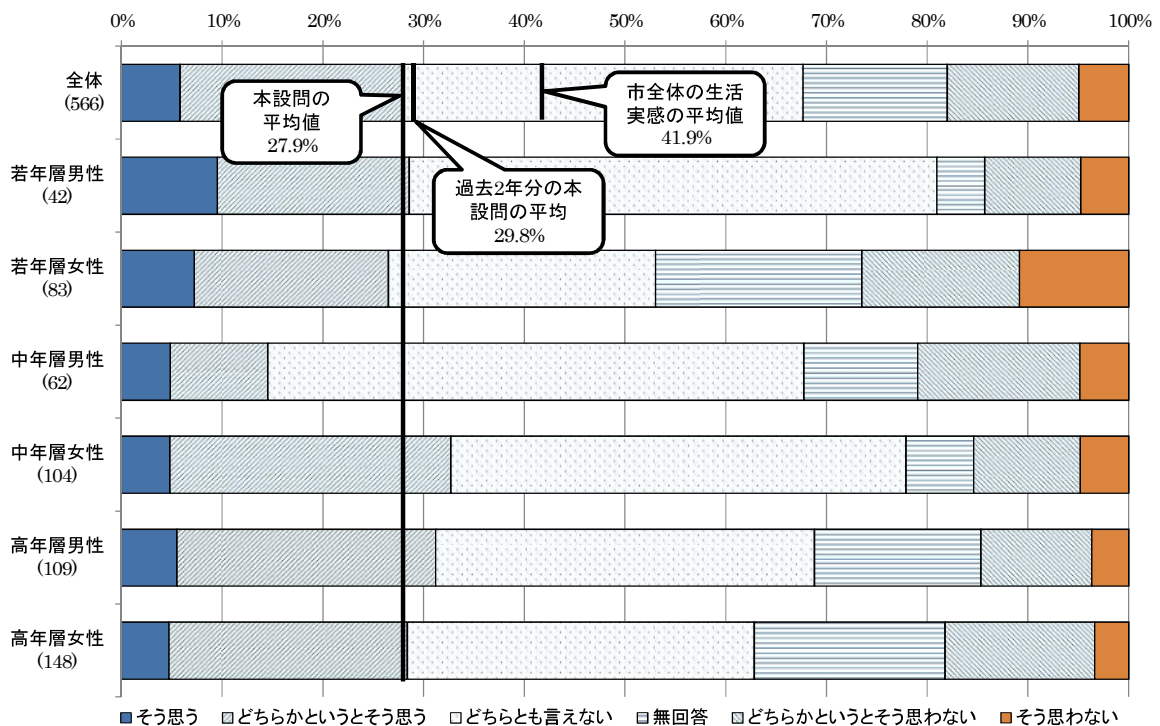
消防・防災 生活実感（世代別・性別）

設問1：身近なところで防火意識が高まり、出火防止の取組が進んでいる。



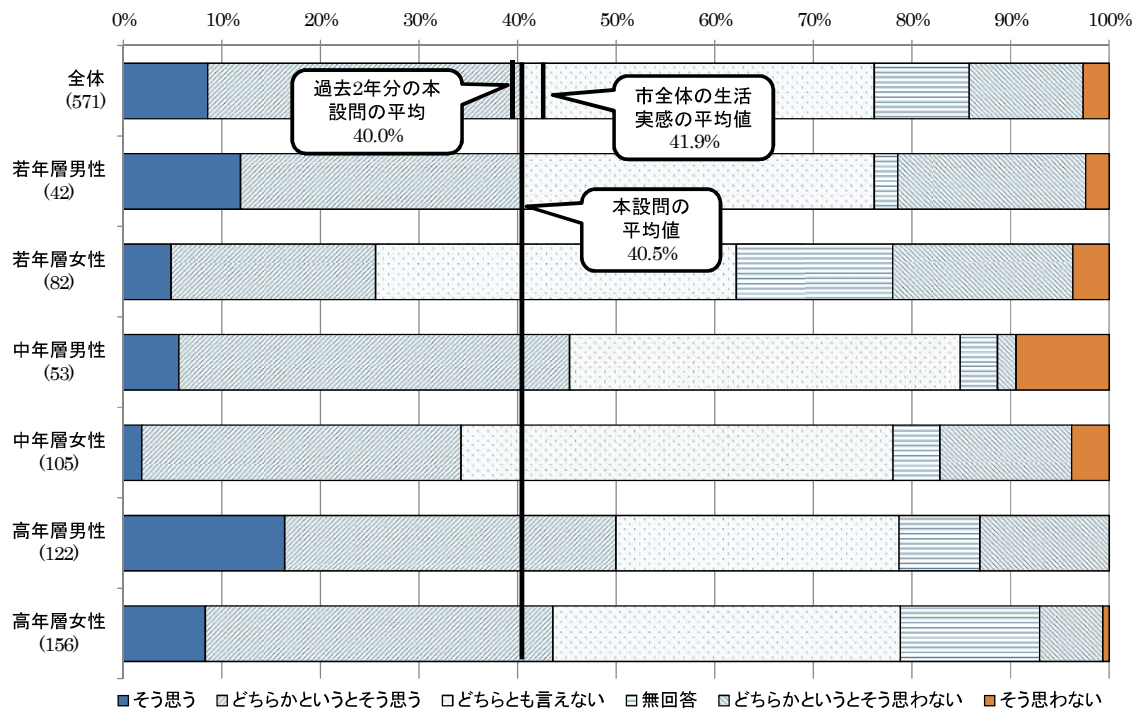
消防・防災 生活実感（世代別・性別）

設問4：応急手当の知識や技術を備えたひとが増えている。



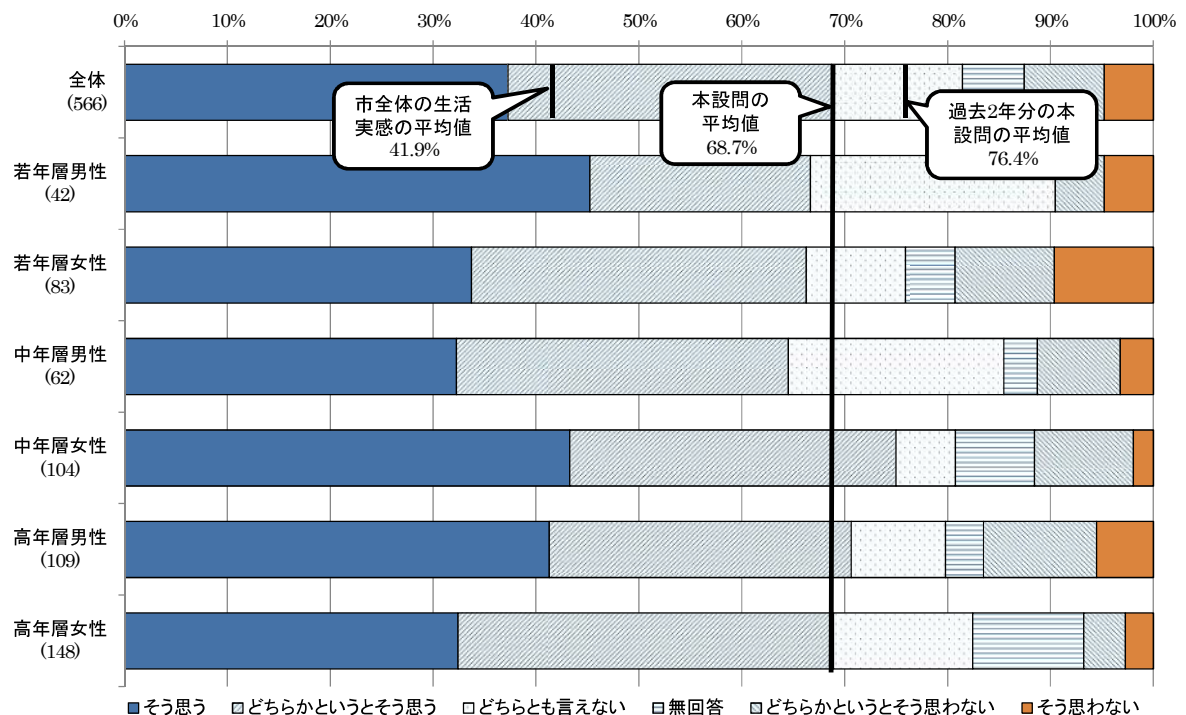
消防・防災 生活実感（世代別・性別）

設問5：防災意識の向上とともに、地域ぐるみの災害対応力が高まっている。



くらしの水 生活実感（世代別・性別）

設問2：大雨が降っても、身近な地域で浸水の被害は起こっていない。



くらしの水 生活実感（世代別・性別）

設問4：水道水がおいしくなるなど、京都の上下水道サービスは向上している。

